

京都府の

「歴史・伝統・文化」を

学ぶために
・教えるために

「やってみたい」から



「できる」へ



平成二十九年 度

京都府総合教育センター

目次

はじめに

第一章 「歴史」から見た京都府

1 平安京遷都以前の京都の姿

- (1) 淀川水系と由良川水系
- (2) 古墳の時代以前
- (3) 奈良から京都へ

2 平安京遷都から中世・近世へ

- (1) 平安京のようす
- (2) 武士の世の中と都の姿
- (3) 信長・秀吉・家康と京都

3 近代京都の誕生と発展

- (1) 新しい時代の幕開け
- (2) 明治・大正・昭和・そして現代へ

第二章 「文化」から見た京都府

- (1) 自然と文化
- (2) 産業・経済と文化
- (3) 生活文化
- (4) ことばと文学
- (5) 伝統文化・伝統芸術・スポーツ

18 16 14 10 9

8 7

6 5 4

3 2 1

第三章 「地域の特質」から見た京都府

- (6) 京都府の教育の底流にあるものために
- (7) 子どもたちの確かな未来のために

22 21

- (1) 乙訓
- (2) 山城
- (3) 南丹
- (4) 中丹
- (5) 丹後

27 26 25 24 23

【資料】

- (1) 京都府歴史年表（明治以降中心）
- (2) 京都府文化施設等紹介資料
- (3) 京都府資料館郷土資料館

5 1

- (4) 京都府立京都文化博物館

12 11 10 9 8 7

はじめに

平成十八年十二月、教育基本法が改正され、教育の理念の一つとして「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」(第二条第五号)が、新たに盛り込まれました。また、この改正教育基本法の理念を踏まえ、平成二十年一月には、中央教育審議会から、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」の答申がなされ、同年三月には、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領が、翌年三月には高等学校学習指導要領が告示されました。「京都府教育振興プラン」においても、「京都府内にある豊かな自然や歴史、伝統・文化など先人が積み上げてきたものを継承し、新しい文化を創造するためには、これらを学び知るだけでなく、自然、人、社会とつながり、共生する力を身に付けることが大切です。」(第5章重点目標2基本的方針)と記されています。

世界はめまぐるしく動いています。情報化やグローバル化などが社会のあらゆる分野において、さらに進展しています。その中で児童生徒が自分自身のアイデンティティをもって、国際社会で活躍できる人間になるためには、何が必要でしょうか。

私たちは、幸い「京都」というかけがえのない「ふるさと」をもっています。

長い歴史の中で培われてきた文化や芸術。世界的な学術研究の蓄積。歴史、伝統、文化、スポーツ、芸術、科学などの多くの分野を通して世界に交流の輪を広げてきた国際性。そしてそれらを進取の精神をもって支え、発展させてきた京都人の心意気。授業を通じて、児童生徒の伝統や文化を尊重する態度を養おうとするとき、私たち自身が、この「ふるさと京都」について、知らなければならぬことがたくさんあります。

このテキストは、京都府の未来を創造する児童生徒に対する「伝統と文化に関する教育」の充実を図るために、教職員の皆さんが「ふるさと京都」について、自ら学び、気付き、研修を深める際の一助となるべく作成しました。

文化庁の京都移転が平成二十八年に決定され、伝統・文化の担い手としての役割が一層期待されます。このテキストが一つの手引きとして、世界で活躍する児童生徒を育てるために、そして、私たち自身がこれからの京都府の未来を考えていくために、活用されることを願っています。

平成二十九年六月

京都府総合教育センター

第一章「歴史」から見た京都府

1 平安京遷都以前の京都の姿

(1) 淀川水系と由良川水系

京都府の歴史・文化を語る上でも、淀川と由良川を考えることは大切である。

淀川は、幹川流路延長七十五km、流域面積八二四〇平方キロメートルの一級河川である。滋賀県山間部に発する大小の河川は琵琶湖に集まり、大津市から南に流れ、八幡市付近で、南丹市美山町の佐々里峠を水源とする桂川と青山高原(三重県)を水源とする木津川を合わせて大阪平野を西南に流れ、大阪湾に注ぐ。府内に置かれた都「恭仁宮」^{くに}、「長岡京」及び「平安京」は、いずれもこの淀川水系の恩恵を被って造営された。

宇治川、桂川、木津川の三川合流部付近には、かつて巨椋池^{おくら}という大きな池が存在していたが、繰り返される洪水の対策等のために、宇治川の左岸沿いに堤防を築いて分離し、一九四一(昭和十六)年には大規模な干拓を行い、農地化され、戦後の食糧増産に寄与した。

一方、由良川は、その源を京都府、滋賀県、福井県の境の三国岳(標高九五九m)に発し、芦生の原生林を抜けて山間部を西流し、高屋川、上林川などを合流して、綾部市、福知山市を経て、土師川との合流点で北方へ流れを転じ、福知山盆地を流下した後は、福知山市北部、舞鶴市を流下し、舞鶴市と宮津市の市境を流れ若狭湾に注いでいる。

由良川流域は、芦生^{あしゆう}の原生林をはじめ豊かな森林を保有する山地が占めており、その割合は約八十九%となっている。由良川は幹川流路延長一四六km、流域面積一八八〇平方キロメートルの一級河川である。

この章では、京都府の歴史を見ていきたい。

(授業のために)

自分たちの暮らしている地域はどちらの水系に属しているか。調べさせてみよう。(小)

川は、人々の生活にどのような役割を果たしているか。身近な川の歴史を調べさせてみよう。また、川と水害について調べさせてみよう。(小・中)

文明・文化の発祥と川(水)の関係について、考えさせてみよう。(高)



(京都府の二つの水系)

(授業のために)

「由良川元氣サミット」「淀川サミット」などについて調べさせ、川の重要性に気づかせよう。また、環境問題との関係についても考えさせてみよう。(全)

(2) 古墳の時代以前―山城・丹波・丹後

乙訓の大枝遺跡をはじめ、山城盆地の各所で旧石器遺跡が発見されている。それらの旧石器遺跡は、約三万年前からの後期旧石器時代のものである。

縄文時代の遺物は府内各地で発見されているが、福知山市武者ヶ谷遺跡で出土した小型の深鉢は、京都府最古の縄文土器として知られている。京丹後市網野町の浜詰遺跡では、竪穴住居跡や貝塚が見つかっており、舞鶴市の桑飼下遺跡では住居の炉跡が多数発見されている。

弥生時代の遺跡としては、長岡京市雲宮遺跡が、府内で最も古く水田を営んでいたとされている。丹後では、京丹後市峰山町の扇谷遺跡、同途中ヶ丘遺跡、京丹後市弥栄町の奈具岡遺跡などが有名である。

三世紀になると古墳が築かれ始める。木津川市の椿井大塚山古墳は、全長一七五mの前方後円墳である。多くの副葬品が発見され、中でも三十二面の三角縁神獸鏡は、被葬者がヤマト(大和)王権の鏡の配布に関わった重要な人物であろうと想定される根拠のひとつである。向日市には寺戸大塚古墳(九十八m)・妙見山古墳(一一四m)、長岡京市には今里車塚古墳(七十五m)・恵解山古墳(一二八m)、城陽市には久津川車塚古墳(二八〇m)などの大古墳が作られた。その他にも、嵯峨野(京都市右京区)付近に地盤を持つ秦氏が築いたと想定される古墳群など、山城地域各地で古墳が盛んに作られた。

丹後半島では、四世紀の中頃以降に、四基の大きな前方後円墳が築かれた。特に三大古墳とよばれる、与謝野町(旧加悦町)蛭子山古墳(一四五m)、京丹後市網野町の網野銚子山古墳(二九八m)、京丹後市丹後町の神明山古墳(一九〇m)が日本海側で最大級の古墳として有名である。これらの古墳では、丹後型円筒埴輪とよばれる地域色の強い埴輪が共通して使われている。

六世紀前半には、亀岡市の千歳車塚古墳(八十m)などが作られた。有力豪族が京都府の各地で活躍し、独自の文化を育んでいたと考えられる。

コラム①「与謝野町立古墳公園」

日本海地域屈指の大型古墳の国史跡「蛭子山古墳」と国史跡「作山古墳」を復元整備し、平成四年に開園した歴史公園。出土した実物の埴輪などを展示した「はにわ資料館」などがある。

(授業のために)

なぜ丹後に古墳が多く残っているか考えさせてみよう。(小・中)

(授業のために)

古墳から出土した遺物などについて調べさせてみよう。また、古墳は何のために作られたか、話し合わせてみよう。(小)



(椿井大塚山古墳)

(授業のために)

古代の山城・丹波・丹後について、歴史(日本史)の教科書にどのように記述されているか、話し合わせてみよう。(中・高)

(授業のために)

(3) 奈良から京都へー平城京から恭仁京、長岡京、平安京へー

古語辞典で「京都」を引くと、「みやこ」という意味の普通名詞であることがわかる。京都盆地内に本格的に人間が居住し始めたのは縄文時代で、高野川と白川の土砂の堆積によってできた北白川扇状地と、同じく賀茂川によって作り出された上賀茂の「谷口扇状地帯」とよばれる地域であるといわれている。

『山城国風土記』逸文には、賀茂氏が京都盆地に入ってくる道筋を伝えている。京都盆地の最初の支配者は、賀茂県主であったといえる。続いて、五世紀後半ごろ、中国、朝鮮半島の渡来系氏族により、優れた技術や文化がもたらされた。このうち、秦氏は葛野地方に根拠地を定め、この低湿地の土地改良に着手し、桂川に大堰を作って水量を調節し、開拓と灌漑に利用した。

さて、大化改新(六四五年)の後、「みやこ」はさまざまな地を転々とする。

近江大津宮、飛鳥浄御原宮、藤原京を経て、七一〇年に元明天皇が平城京に遷都した。これで、本格的な「みやこ」として安定するかと思われたが、七四〇年、聖武天皇は山背国相楽郡(現木津川市)に、恭仁京の建設を進めた。その五年後に「みやこ」は平城京に戻る。

恭仁京は、発掘調査の結果、中心部分である宮の範囲は確定したが、京の範囲などはまだ確認されていない。恭仁宮跡では発掘調査により、主要な建物跡などの様子が徐々に明らかとなり、瓦や木簡が出土している。

桓武天皇は、七八四年四月に、水陸の便のよい山背国長岡への遷都を宣言し、十一月に平城京から長岡京へ都を移した。

遷都後わずか十年で、同じく淀川水系の都として京都に「みやこ」が造られた。

その前年から葛野の調査から始まり、宅地造成と河川改修が進められ、七九四年十月に遷都が行われた。遷都の詔は、「葛野の大宮の地は、山川も麗しく、四方の国の百姓の参出で来たる事も便りにして」と述べている。

遷都の翌年、山背国は山城国に改められ、新京は平安京と号することとなった。

コラム② 「長岡京」

現在の向日市・長岡京市付近。桓武天皇のブレインでもあった藤原種継の暗殺やそれへの関与を疑われた早良親王の怨霊の噂、二度の桂川の洪水などがあり、十年で「みやこ」の役割を終えた。

奈良く平安時代には、多くの寺院が建設された。木津川市山城町の蟹満寺は現存している七世紀後半の寺院である。

それぞれの地域にある古い文化財について、調べさせてみよう。

(全)

↓京都府ホームページ「人権ゆかりの地をたずねて(京都市内編)『広隆寺』」参照。(『人権教育資料集 高等学校編』p182にも掲載)



恭仁宮大極殿

(授業のために)

恭仁宮、長岡京、平安京それぞれの特徴を、山城郷土資料館や丹後郷土資料館をはじめ、それぞれの地域にある資料館を訪問したり、当時の資料や発掘調査報告などを活用して調べさせてみよう。(全)

2 平安京建都から中世・近世へ

(1) 平安京のようす

当時の都は平城京も平安京も中国の都城にならって造られた。平安京は唐の都「長安」や「洛陽」をモデルとしていたことはよく知られている。今でも、東京へ行くことを「上京する」というが、京都へ上ることは「上洛する」、入ってくることは「入洛する」という。これは中国の都「洛陽」の「洛」をとったものである。平安京の大きさは、東西約四・五km、南北約五・二km、朱雀大路（現在の千本通のあたり）が東西両京を分かち、その北部（二条城の北西あたり）に宮城（大内裏及び内裏）があった。面積は長安の三分の一以下であった。また、中国の都と違う点は、周りを囲む塀（羅城）が、南部の羅城門周辺にしかなかったところ、貴族官人と百姓は同じ京中に住み、居住地が区別されていなかったところなどである。京中に本籍のある百姓を京戸といった。人々の多くは左京に住み、低湿地の多かった右京は整備がおくれたといわれる。羅城門の東西には、東寺（教王護国寺）・西寺が建立された。なお、西寺は廃絶し、現在は史跡となっている。

平安京の都市的発展が「みやび」「ひな」の対比をより明確にし、後の国風文化が生み出される一因となったといえよう。平安時代は約四百年続く。政治上では、大きく三時代に区分されるが、文化もほぼ同じように展開していく。十世紀初めごろまで、中国の影響による唐風文化が栄えた。漢文学や書道が盛んになり、宮廷儀礼も唐風儀式を取り入れ整備された。

八九四年に遣唐使が廃止されて以来、十世紀に入るとそれまで吸収してきた中国文化や仏教を基礎として、日本らしい文化―国風文化―が生まれてくることになる。祭礼では、石清水八幡宮の「南祭」に対して、上賀茂神社（賀茂別雷神社）・下鴨神社（賀茂御祖神社）の「北祭」（葵祭、正式には賀茂祭）が行われ、八坂神社の「祇園御霊会（祇園祭）」が行われるようになった。

コラム③ 「源氏物語千年紀事業」

『紫式部日記』の一〇〇八年十一月一日の条に、「若紫」や「源氏」などの記述がある。そのことから、源氏物語が貴族の間で読まれていたことが記録の上で確認できる。この日から、ちようど千年を迎えることを「大きな節目」と捉え、「古典の日」宣言が公にされ、様々な記念事業が実施された。

(授業のために)

『古今和歌集』は、各校種で「国語」の教材として登場する。ことばの学びを進め、伝統文化を理解する観点から和歌（短歌）を教材として積極的に学習させたい。(全)

例 百人一首大会

各種短歌コンクール応募

和歌（短歌）の実作



(葵祭の行列)

(授業のために)

各地域で行われている「祭」や「行事」の起源を児童生徒に調べさせ、行事に関わる人々のインタビューなどの活動を取り入れてみよう。(小・中)

宇治上神社などの「世界文化遺産」について調べさせてみよう。(全)

(2) 武士の世の中と都の姿

平安時代は、天皇とそれを取り巻く貴族、とりわけ藤原氏の盛衰が都の姿に大きな影響を及ぼしている。藤原氏は皇室と姻戚関係を結び、摂政・関白の地位に就き、政権を掌握した。

九世紀後半から十一世紀の頃の政治を摂関政治と呼び、藤原道長の時代に栄華を極めた。また、一〇五二年は末法元年とされ、頼通の時代には末法思想とともに、浄土思想が広まり、平等院鳳凰堂が建設された。

院政の後期には、貴族が都の警護や鎮圧のために武士を用いたことから、武士が次第に台頭していく。保元(一一五六年)・平治(一一五九年)の乱の後、権力を握ったのは平清盛である。彼は武士として初めて太政大臣に上りつめ、膨大な荘園と知行国を持ち、日宋貿易にも力を注いだ。

しかし、清盛が亡くなった後、源義仲の京都侵入をきっかけに源平の争乱が起こった。五年にわたって続いた争乱は、最終的に平氏の滅亡で幕を閉じた。後白河法皇は源義経に頼朝追討を命じたが、最後に勝ち残ったのは、頼朝である。

一一九二年に征夷大將軍に任ぜられた頼朝は鎌倉に幕府を開いた。しかし、源氏による將軍は三代しか続かず、以後、鎌倉幕府の実権は北条氏が執権として掌握した。一二二一年には、後鳥羽上皇が執権北条義時を追討する兵を挙げたが、幕府の圧倒的勝利に終わった(承久の乱)。

その後、幕府は京都に六波羅探題をおいて朝廷を監視し、京都内外の警備や西国の統括を任務にあたらせた。二度にわたる元(蒙古)の襲来や経済状況の悪化によって、幕府は次第に衰退していった。

十四世紀に入って、後醍醐天皇は、反幕勢力を結集して、倒幕ののろしを上げた。足利尊氏や新田義貞の活躍もあり、一三三三年鎌倉幕府は滅亡した(建武の新政)。

しかし建武の新政は長くは続かず、足利尊氏が征夷大將軍に任ぜられてからは、吉野の南朝と京都の北朝が対立し、南北朝の動乱が始まる。

それが収まるのは、三代將軍足利義満の時代で、南北朝の合体を行い室町に壮麗な「花の御所」とよばれる邸宅を造営して、室町幕府の中心とした。また、鹿苑寺金閣は、その義満が建てた北山山荘である。

八代將軍の義政は、東山山荘、現在の慈照寺銀閣を建てた。それは、義満時代の北山文化に対して義政時代の東山文化を代表する建築物である。

(授業のために)

各種で、歴史の学習を踏まえて、貴族の世の中と武士の世の中の違いを考えさせてみよう。(全)

また、歴史上の人物についてレポートさせることも考えられる。(中・高)

(例)平清盛、後白河天皇(法皇)

足利義満 など

(授業のために)

室町時代には、北山文化や東山文化が栄えた。能・狂言、茶道や華道など、現在も脈々と受け継がれている伝統芸能・文化が京都にはたくさんある。それらの中で一つ選んで、調べさせてみよう。(全)

↓京都府ホームページ「人権ゆかりの地をたずねてIII」慈照寺(銀閣寺)の庭園」参照。(『人権教育資料集

高等学校編』p九〇にも掲載)

(3) 信長・秀吉・家康と京都

室町幕府は、守護大名の抗争により弱体化し、ついに応仁・文明の乱（一四六七～七七年）は、京都を焼き尽くし、同時に室町幕府の力を更に弱めた。そして、各地の守護大名は地域支配力を強めて自立し、戦国大名となって一様に京都を目指した。「上洛」は全国支配の権威を手に入れるための戦国大名の最終目標であったのである。応仁・文明の乱の後もなお、京都は経済的に重要な位置を占めていた。

桶狭間の戦いで今川義元を破った織田信長は、一五六八年足利義昭を立てて京都に入った。その後一五七三年に室町幕府を滅ぼし、政治都市京都と地元の岐阜を結ぶ線上の近江に、壮大な安土城を築いた。信長の有力家臣は日本全国で戦い、その勢力を拡大していった。後に本能寺の変で信長を討つことになる明智光秀は、丹波の国を攻略し、一五七九年に抵抗する武士はいなくなった。明智光秀は丹波亀山城（現在の亀岡市）、横山城（光秀が福智山城と改名 現在の福知山市）等を築城し、領内の発展に努めた。同時期、丹後南部は、細川藤孝が宮津城を居城としていた。

信長の没後、天下統一を果したのは豊臣秀吉である。信長を倒した明智光秀を山崎（現在の大山崎町）の合戦で討ち、その後様々な戦いに勝利して、関白太政大臣の地位を得た。大坂城を築城し、晩年は伏見城に住まいした。伏見城は、京都と商業都市大坂を結ぶ線上に築かれている。城下町伏見には、今も「桃山町島津」、「毛利長門」、「筒井伊賀」などの大名屋敷にちなんだ町名が残っている。安土桃山時代という呼び方は、信長・秀吉の居城にちなんでいる。秀吉は、聚楽第を造営し、京都の城塞都市化と区画整理を試みた。「御土居」や「寺町」はその名残である。

秀吉の死後、関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は江戸幕府を開き、京には、京都所司代や二条城を設置した。京都所司代は、京都の警備・朝廷の監視と西国の統制の役割を担っていた。

丹波・丹後では、江戸時代には十二の大名が本拠を持っていった。その内、城持大名は四つ。亀山藩、福知山藩、宮津藩、田辺藩があり、久美浜には代官所が置かれた。

政治の中心が江戸に移った後、京都の「政治」の真の担い手である町衆は、さらに影響力を拡大していった。たとえば、豪商として名高い角倉了以は、私財を投じて、大堰川を開削し、京都の中心部と伏見を結ぶ水運用の運河として高瀬川を開いた。

（授業のために）

戦国大名たちが、京都を目指した理由は何か、話し合わせてみよう。（中・高）



（大堰川）

（授業のために）

京都府内にある「城」について、調べさせてみよう。（小・中）

「京の七口」について、調べさせてみよう。（全）

（授業のために）

江戸時代の府内各藩の特徴について調べさせてみよう。（全）

3 近代京都の誕生と発展

(1) 新しい時代の幕開け―幕末を経て「京都府」へ―

明治維新の変革は、近世を通じて発展してきた日本の都市に大きな変動をもたらした。なかでも京都が被った衝撃は深刻なものであった。新選組の池田屋事件、京都市街地の三分の一以上を焼失したといわれる蛤御門の変、鳥羽伏見の戦いなど、京都は幕末維新の動乱に巻き込まれた。

京都は、王政復古によって新政府の中心になると期待されたが、一八六九年東京への事実上の遷都が決定的となった。天皇にしたがって東京へ向かう公家も多く京都の伝統産業や伝統芸能は大きな打撃を受けた。

一八六八年、山城国の皇室領、公家領などを中心に京都府が成立する。その後、一八七一年、廃藩置県によって、旧藩がほぼそのまま県となった。同年十一月に府県統廃合が行われ、京都府と豊岡県が生まれ、その後一八七六年には豊岡県が廃止となり、丹後国五郡と丹波国天田郡は京都府に移管され現在の京都府の管轄領域が定まった。府知事は、榎村正直となる。京都再生のためになされた諸政策は一般に「京都策」といわれたが、これらは勸業政策から政治経済、教育に至る大改革を含んでいた。教育では、中世以降、町衆によって築かれた町組の組織の上に新たに学区制を敷き、小学校を町組を単位として設けるといったものであった。上京第二十七番組小学校は、日本最初の小学校であった。この基盤の上に、やがて中学校、女学校が創立され、一八九四（明治二十七年）年第三高等学校が誕生した。府内各地の藩校時代からの伝統ある学校も、小学校・中学校として整備されてきた。

産業面においても、次々と画期的な施策が行われていった。たとえば、舎密局、勸業場、織殿、染殿などの設立や博覧会の開催である。

中でも琵琶湖疏水は特筆すべき事業であった。北垣国道知事のもと、一八八五（明治十八）年から足かけ六年の大事業は、日本初の水力発電（蹴上発電所）、路面電車の敷設などを可能にし、今なお一日に二百万立方メートルの水を琵琶湖から京都へ送り、水道水を供給している。

コラム④「琵琶湖疏水記念館」

記念館は、琵琶湖疏水竣工百周年を記念し、先人たちの偉業を後世に伝えていこうと、京都市水道局が一八八九年八月に開館した。明治時代に完成した第一疏水や第二疏水の工事記録、インクラインの模型、通水路目論見実測図などの展示品数百点が並び、疏水について児童生徒が興味を持って理解できるようになっており、近代京都の三大事業の概要を学ぶことができる。

（授業のために）

幕末の京都の様子について、それぞれの地域で、どんなことがあったのかを、各市町村史などを参考にして、調べさせてみよう。（全）

（授業のために）

昔の子どもたちの「遊び」について調べ、自分たちでも遊ばせてみよう。（小）



（琵琶湖疏水合流点）

(2) 明治・大正・昭和、そして現代へ

明治時代以降、京都府内に起きた出来事を時代にしたがって記述する。民権活動家たちにより中等教育機関の役割を持つ天橋義塾が旧宮津藩藩校跡に一八七五年に設立された。後にこの機能は、宮津中学校（旧制）に引き継がれる。

一八九五年には、平安遷都千百年祭が挙行され、平安神宮が創建された。また、それぞれの時代風俗で行列する「時代祭」も始まった。一八九八年に京都府立図書館が開館した。翌年には、京都府水産講習所、京都蚕業講習所が開所し、京都の産業振興を図ることになる。この時期には、鉄道網も整備された。京都・神戸間、京都・舞鶴間の直通運転、私鉄として京阪電気鉄道（大阪）・五条間が開通した。京都市電の運転が開始されたのは一九一二年である。京津電気鉄道三条・浜大津間は一九一五年開通である。一九二四年には、現在も府民の憩いの場となっている京都府立植物園が開園している。一九二七年には、丹後大震災が起こり、丹後地域は大きな被害を被ったが、京都府は震災復旧費として多額の府債を発行して対応し、打撃を受けた丹後機業も、短期間で復興を遂げた。また、一九三二年に国営干拓事業として開始された山城地域の巨椋池の干拓事業は、幾多の困難に直面しながらも、一九四一年になって竣工した。

一九四六年、第一回秋季国民体育大会は京都を中心に開催された。のち国体は、全国を一巡して、一九八八年に二巡目の初回となる第四十三回国民体育大会「京都国体」が開催されることになった。

一九四九年、京都大学出身の湯川秀樹博士が、日本人初のノーベル物理学賞を受賞した。

文化施設では、府立総合資料館（一九六三年）、府立文化芸術会館（一九七〇年）、府立体育館（一九七一年）府立山城総合運動公園

（一九八二年）などが、相次いで開館・開設された。

このように、京都には歴史的な伝統を守りつつ、新しい文化を常に創造し続けてきた。

コラム⑤「京都にゆかりのあるノーベル賞受賞者」

湯川 秀樹	(物理学賞 一九四九年 京都帝国大学卒業)
朝永 振一郎	(物理学賞 一九六五年 京都帝国大学卒業)
江崎 玲於奈	(物理学賞 一九七三年 同志社中学、旧制第三高等学校卒業)
福井 謙一	(化学賞 一九八一年 京都帝国大学卒業 京都大学教授)
利根川 進	(生理学・医学賞 一九八七年 京都大学理学部卒業)
野依 良治	(化学賞 二〇〇一年 京都大学工学部卒業)
田中 耕一	(化学賞 二〇〇二年 島津製作所フェロー)
下村 脩	(化学賞 二〇〇八年 福知山市出身)
小林 誠	(物理学賞 二〇〇八年 京都大学助手)
益川 敏英	(物理学賞 二〇〇八年 京都大学教授、京都産業大学教授)
山中 伸弥	(生理学・医学賞 二〇一二年 京都大学教授)
赤崎 勇	(物理学賞 二〇一四年 京都大学理学部卒業)

(授業のために)

府内の文化施設（図書館、資料館、博物館、歴史的建造物等）を訪ねて、訪問レポートを書き、発表させてみよう。(小・中) ↓資料p五参照。

(授業のために)

なぜ、日本人のノーベル賞受賞者には、京都で学んだ人物が多いのか、自分なりの考えをまとめさせてみよう。(中・高)

第二章 「文化」から見た京都府

(1) 自然と文化

日本列島のほぼ中央に位置する京都府は、約四千六百十三平方キロメートルの面積を有し、四十七都道府県中三十一番目の大きさである。北は日本海と福井県、南は大分府、奈良県、東は三重県、滋賀県、西は兵庫県と接しており、南北に細長い形をしている。北部には由良川水系が、南部には淀川水系が、それぞれ日本海・瀬戸内海に開いている京都府は、水運を始めとする様々な交通手段で「近隣の地域」とつながりを持ち、また遠方の地域までも、往き来が盛んにできた。「都」にふさわしい条件がそこにもある。

そのほぼ中央に位置する丹波山地を境にして、気候は日本海型と内陸型に分かれている。北部の海岸線は、変化に富むリアス式海岸で、日本三景の「天橋立」をはじめとする風光明媚な景勝地や天然の良港に恵まれている。冬は季節風が強く、雪の深いところがある。

中丹地域から中部地域は、大部分が山地で、丹波山地を源に桂川水系、由良川水系に分かれ、その流域には、亀岡盆地、福知山盆地のほか小盆地が点在している。山間部を川が流れているため、霧が発生することもある。京都縦貫自動車道亀岡付近は、早朝、霧に包まれることが多い。

京都盆地・乙訓、山城中部・相楽地域は、桂川、宇治川、木津川の三川合流を要に、山城盆地が広がっている。気候は内陸性気候で、夏の暑さ、冬の寒さとも厳しい。

鎌倉時代に、兼好法師が『徒然草』に気候と家について有名な一節を残している。

家のつくりやうは、夏をむねとすべし。冬はいかなる所にも住まる。(第五十五段)

当時の平安京(現在の京都市内)の人々も、「夏の蒸し暑さ」「冬の底冷え」につらさを感じていたことだろう。自然と文化は密接につながっている。

コラム⑥ 「山陰海岸ジオパーク」

ジオパークとは、地質遺産とよばれる地質学的に重要な地層や岩石が直接見られる場所や重要な地形などを含む自然公園を指している。京都府、兵庫県、鳥取県にまたがる山陰海岸ジオパークは、大陸から日本列島が分かれた地形などが評価され、世界ジオパークネットワークに二〇一〇年十月四日に加盟が認定された。京都府には、京丹後市の「経ヶ岬く間人エリア」、「琴引浜く久美浜エリア」、「郷村断層エリア」がある。

(授業のために)

自分の住んでいる地域の自然について調べてさせてみよう。

地域の方々からの聞き取りや市町村の公共図書館なども利用させ、また、調査内容は、ポスターセッションなどの方法を用いて児童生徒同士で共有させたい。(全)



(KTR由良川橋梁)

(授業のために)

「京都府の木」「京都府の花」「京都府の草花(二種)」「京都府の鳥」が制定されているので調べさせよう。また、各市町村でも定められているものがあるか調べさせてみよう。(小)

(2) 産業・経済と文化

○農業について

京都府は南北に細長く、気温や降水量に大きな違いがあり、作られている作物も様々である。都という巨大な消費地に支えられながら、幾度かの飢饉や自然災害を切り抜け、京都の自然を利用した農業が着実に定着していった。また、商業の発達とともに中世には各地で特産物が作られるようになり、「宇治の茶」「丹波の栗・東山の蕪・西山の心太」などが『庭訓往来』（玄惠の著とされる、室町初期）にあげられている。江戸時代に入ると、「丹波のたばこ」や「黒谷（綾部）の和紙」などが全国的に知られるようになる。

現在、南部の山城地域は、全国的にも有名な宇治茶の生産地であり、北部の丹後半島では、碓高原牧場など酪農が行われている地域がある。また、中央部の亀岡盆地は、米の生産量では、京都府一の地域である。このように豊かな自然を生かして、多くの作物が作られているが、その中でも特に有名なものが京野菜であり、全国的にも注目を集める特産品となっている。

京野菜とは、一般的に「京の伝統野菜」や「ブランド野菜」を指し、京都府により一九八七（昭和六十二年）に当初三十四種が認定された野菜の品目のことである。「加茂なす・壬生菜・聖護院かぶら・堀川ごぼう・九条ねぎ」など独特の味と風味が人々に愛されている。その中には、絶滅した野菜「郡大根」「東寺蕪」「聖護院さゆうり」の三種類も含め、三十八種類である。

また、

コラム⑦「京の伝統野菜」（絶滅種及び準じる野菜も含め、四十一種が認定）

伝統野菜に準じる 京の伝統野菜として、京都府が認定している野菜は次のとおり。

野菜として、一万	大根	・ 辛味大根	・ 青味大根	・ 時無大根	・ 桃山大根	・ 茎大根
願寺唐辛子	蕪	・ 佐波賀大根	・ 聖護院大根			
子「鷹ヶ峯唐辛子」	葉野菜	・ 松ヶ崎浮菜蕪	・ 舞鶴蕪	・ 聖護院蕪	・ 大内蕪	
菜「の三種類も含まれてい	茄子	・ 鶯菜	・ 酸茎菜	・ 水菜	・ 壬生菜	・ 畑菜
	唐辛子	・ もぎ茄子	・ 加茂なす	・ 京山科なす		
	根菜	・ 伏見唐辛子	・ 田中唐辛子	・ 山科唐辛子		
	その他	・ 鹿ヶ谷南瓜	・ 海老芋	・ 堀川ごぼう	・ 慈姑	
		・ 桂瓜	・ 柘野ささげ	・ 京独活	・ 京茗荷	・ 九条ねぎ
		・ 京筍	・ 蓴菜	・ 京茗荷	・ 九条ねぎ	・ 京芹

（授業のために）

それぞれの地域の農業の現状について、調べさせてみよう。（農家やJA、八百屋や農業研究所、京料理店などへの聞き取り、訪問等を含む。）（全）



（京の伝統野菜 加茂なす）

○林業について

京都府で林業が盛んな地域といえば、南丹市美山町、京都市北区、右京区京北町などである。美山町は丹波高地のほぼ中央に位置し、高さが八百〜九百mの山が連なり、「京都府の屋根」といわれている。

都市の造営のためには、多くの物資を必要とする。中でも木材は重要な役割を果たす。特に京の都は何度も戦火に見舞われ、そのたびごとに復興を果たしてきた。近隣から多くの材料の提供を受けたが、木材についても丹波や山城地域などから大堰川や木津川の水運を使って集められた。林業は消費地京都に支えられて発達してきたといえよう。

京都の家の床柱には「北山杉」の磨き丸太が使われることが多かった。すでに、室町時代には建築用材として盛んに用いられたという。京都では家を建て替えても何代も大黒柱や床柱とこぼしらは同じ木を使う習慣があり、名実ともに家を支える大黒柱となっている。

また、現在でも、薪炭作りも盛んで、平安京以降京都のエネルギーを支えてきた。

○漁業について

京都で海に面しているところは丹後半島を中心とする地域で、京丹后市、舞鶴市や伊根町など、優れた漁港が多い。

「寒ブリ」と呼ばれる冬のブリ漁は昔から有名で、他にもイワシ、アジ、サバ、イカなどが多く捕れる。また、最近では魚を捕るだけでなく、育てて増やすことにも力をいれており、ハマチの養殖、サザエやアワビの養殖も盛んである。

また、若狭（福井県）から京の都までを結ぶ街道は「鯖街道さばかいどう」とよばれる。若狭湾で捕れたサバを海岸で「塩をする」と、京都へ運んでくるころ、ちょうどよい塩加減になっているという。平安時代から魚類はその土地の人々の食料となっただけでなく、朝廷への貢納品としての需要が多かった。中でも「アワビ・ワカメ・カツオ・アラメ」などの塩干加工品の需要が多かった。

○伝統産業について

現在の京都の産業は、「伝統的な産業」と、その高い技術力を背景として成長してきた「先端技術産業」が、互いに切磋琢磨して発展を続けている。

貴族文化が発展していく中で、産業が発達し、経済も発達していった。平安時代の初め、左京に東

（授業のために）

北山杉をはじめ、京都の林業について調べさせてみよう。（全）

今後、京都をはじめ、日本の林業を盛んにするための方策について考えさせてみよう。（中・高）



（北山杉）

（授業のために）

自分たちの食生活の中で、魚をどのように食べているか。一ヶ月の給食を例として、調べさせてみよう。（小）

今後、京都をはじめ、日本の林業を盛んにするための方策について考えさせてみよう。（中・高）

市（現在の七条堀川付近）、右京に西市（現在の西大路七条付近）の官営市場が開かれた。

京都といえば「西陣織、友禅染」などの繊維産業や「陶磁器、漆器」などの伝統工芸品がすぐに思い出されるが、それらは平安時代から、今日に至るまで貴族文化、仏教文化の影響を受けながら発展を続けてきた。

「丹後ちりめん」

丹後は古くから絹織物の産地として知られていた。「あしぎぬ」という絹織物が献上され、今も正倉院に保存されている。中世には「精好織り」と呼ばれる絹織物が作られていたが、西陣の「ちりめん織り」が盛んになってきたのと呼応するように、丹後に「ちりめん織り」の技術が入ったのは、江戸時代享保年間（十八世紀前半）といわれている。峰山・加悦谷等が中心となって織られていたが、のち丹後一帯に広まった。

「西陣織」

応仁、文明の乱で山名宗全が西軍の陣地を構えたので「西陣」と呼ばれるようになったこの土地は、もともと織手の居住地であった。織部司のもと「錦・綾」などを織ったり染めたりしていたという。鎌倉時代に藤原定家が『明月記』の中で、

近日京中織手、唐綾を織り出す。

とっているように、すでに中国のものに負けない綾織物が織られていたようで、室町時代の『庭訓往来』に「大舎人の綾、大宮の絹」ということばが見られ、著名な産物となっていた。豊臣秀吉も西陣の振興を支援した。

織機の改良や技術の向上とともに発展を続け、江戸時代元禄年間に質・量とも全国一の生産を誇るようになった。江戸時代も幕府の保護を受け発展を続けたが、何度かの飢饉や火災などでかなりの打撃を受け、江戸時代末期には織機の数は全盛期の四分の一に落ち込んだ。しかし、明治時代に入って「西陣織物産会社」が設立され、改善が図られるようになった。

「友禅染」

京友禅は全国の染め呉服生産量の約八割を占める。平安時代に置かれた官営工房を起源とする京染は、江戸時代（十七世紀後半）、宮崎友禅によって手描き友禅という染色技法により「京友禅」として確立されたといわれている。

宮崎友禅は、染料を新しく改良したり、防染糊によって模様と地を染め分ける技法を用いることに

（授業のために）

和服（着物）について調べさせてみよう。（小）

丹後ちりめん、西陣織や手書き友禅など、京都の伝統産業がどのような現状であるかをレポートさせてみよう。

（中・高）

（授業のために）

京都では、伝統産業に加え、先端（先進）技術産業も盛んである。それらについて、具体的な企業や代表的な製品名や、それが現代社会に果たしている役割について調べさせてみよう。（全）

よって、複雑な模様を描くことを可能にし、多くの色を用いた華やかな染めを実現した。明治時代に合成染料が導入され、型紙を用いて染める技法（型友禅）が取り入れられるようになって、量産が可能になった。鴨川では近年まで友禅染の布についての染料を洗い流す作業風景が見られた。

「京焼・清水焼」

近世以降に京都で生産された陶磁器を総称して京焼という。十七世紀初めごろから本格的な焼き物が東山、特に清水辺りを中心に作られ始めた。江戸時代には様々な技法が取り入れられ、また京都から他地域へもその技法が伝えられ、発展を続けた。

京焼・清水焼の歴史に欠かせぬ人物に、野々村仁清がいる。丹波の陶工であった仁清は、入洛後、茶器を作り、錦手の秘法を会得する。それは華麗で優雅な色絵陶器であった。

また、仁清から直接手ほどきを受けた尾形乾山は、装飾性に富んだ絵模様で、独自の意匠性を加え、発展させていった。

コラム⑧ 「京都の伝統産業」(上段：名称 下段：主な製品)

- | | |
|------------|-------------------|
| ① 西陣織 | 帯地、着尺、金襴、緞帳 |
| ② 京鹿の子絞 | 着尺、羽尺、小物 |
| ③ 京友禅・京小紋 | 着尺地、羽尺地 |
| ④ 京繡 | 着尺地、羽尺地、室内装飾 |
| ⑤ 京くみひも | 帯締め、羽織ひも |
| ⑥ 京黒紋付染 | 礼服 |
| ⑦ 京仏壇・京仏具 | 塗仏壇、木製仏具、金属製仏具、仏像 |
| ⑧ 京漆器 | 茶道具、食器、家具 |
| ⑨ 京指物 | たんす、飾り棚、茶道具 |
| ⑩ 京焼・清水焼 | 飲食器、花器、茶器、置物 |
| ⑪ 京扇子・京うちわ | 扇子、うちわ |
| ⑫ 京石工芸品 | 灯籠、層塔 |
| ⑬ 京人形 | 雛人形、衣装人形、御所人形 |
| ⑭ 京表具 | ふすま、表装、屏風、衝立 |

コラム⑨ 「京都府知事指定 伝統工芸品」

「京もの指定工芸品」として次の十五種が指定

- ・京房ひも・撚ひも
- ・丹後藤布
- ・京陶人形
- ・京都の金属工芸品
- ・京象嵌
- ・京刃物
- ・京の神祇装束調度品
- ・京銘竹
- ・京の色紙短冊和本帖
- ・北山丸太
- ・京版画
- ・丹後ちりめん
- ・黒谷和紙
- ・京たたみ
- ・京印章

(授業のために)

図画工作(美術、工芸)、家庭・技術などの教科書に載っている伝統産業の作品について調べさせてみよう。(全)

また、コラム⑧の「京都の伝統産業」または「京もの指定工芸品」から一つ選んで、レポートさせてみよう。(中・高)



(京扇子・京うちわ)

(3) 生活文化(食・住・衣)

○食生活について

平安時代の食事は一日二回で、巳の刻(午前十時)と申の刻(午後四時)ごろ摂っていたようである。

主食の米には、現在の「おこわ」にあたる甑こしきで蒸した「強飯こわい」と、現在の「ごはん」にあたる「ひめ飯」とがあった。副食には、野菜、海藻、魚、貝類、肉などを用い、調理法には、野菜や魚肉を煮た吸い物の羹あつもの、炙物あぶりもの(焼き物)、煎物、干物、漬物、鮓すし(魚介類を塩漬けて発酵させたもの)などがあつた。

食事には味が付いておらず、自分で調味料を使って味付けをした。調味料には、塩、酢、味噌、胡麻油、醬ひしお(大豆に小麦などで作った麴こうじと食塩水を加えて醸造したもの)があり、甘味料には、蜂蜜、飴、甘葛などが使われた。また果実や、乳製品である「蘇せ」なども食べたという記録がある。

平安時代の食生活は多様である。儀式の時は、豪華な献立であるが、日常生活では、「粥かゆ」や「湯漬」のたぐいで済ませていた。

また、寺院での「もてなし」や茶の湯の普及によって洗練された京菓子も作られるようになった。その他、宇治茶や伏見の酒など全国に知られたものも多い。

○住生活について

平安時代、貴族の中には「寝殿造」と呼ばれる邸宅に住んでいた者がある。「寝殿造」は、一町(約一二〇m)四方の敷地を基本とし、周囲を築地で囲み、中央には寝殿が建てられ、その東・西・北には渡殿わたどのでつながれた対屋たいのやを配したものである。寝殿正面には池や築山などのある大きな庭を造り、池に面して釣殿・泉殿が造られた。

一方、庶民の住居については、慶滋保胤の『池亭記』(九八二年)には、

「左京の四条大路より北の一带は、現在、その西の端から東の端まで、人々が身分の上下に関係なく数多く群れ集って暮らす地域となっている。そこでは、大きな邸宅と大きな邸宅とが門を並べて母屋を連ねており、小屋と小屋とが壁を触れ合わせて軒を接している」とあり、「洛中洛外図屏風」には、室町時代の街に暮らす庶民の小さな木造の家屋が描かれている。

(授業のために)

自分の家や親戚の家で食べられている「雑煮」や「おせち料理」について調べさせてみよう。(小・中)

平安文学の中に食事の場面が少ないのはどのような理由だと考えられるか。話し合わせてみよう。(高)

(授業のために)

地域の伝統的な建造物について調べさせてみよう。(小・中)

寝殿造や寺院建築の特徴についてまとめさせてみよう。(高)

昔から人々は生活に適した住居を工夫しており、伊根町の「舟屋」や南丹市美山町の「かやぶきの里」等は、その一例である。

○衣生活について

平安時代中期以降、「束帯」が貴族の正装となった。貴族の装束はこのほかに、準正装の「布袴」、略装の「衣冠」、平常服の「狩衣」、庶民の服装「水干」、鎌倉時代以降武家の平常服となった「直垂」などがあつた。

女性の正装は、「唐衣・裳」と呼ばれるもので、天皇の前に伺候するときに必ず着用した。これは、長袴・単・桂・表着に打衣を加え、唐衣・裳を着けたものである。日常的には、小桂、桂、細長が用いられた。平安時代の衣服は何枚も重ねて着るものであつたため、「襲色目」という色彩の調和美を生み出した。

貴族や官吏は絹織物、庶民は麻織物が原則であつた。しかし、織物の技術はこの時代より盛んになり、錦・羅・綾など高級織物も作られるようになった。

室町時代には、朝鮮半島から輸入された木綿が登場する。

コラム⑩ 「重要伝統的建造物群保存地区」

文化財保護法第一四三条に基づき、市町村が条例などにより定めるのが「伝統的建造物群保存地区」である。また、その価値が特に高いものとして、市町村の申し出に基づき、国（文部科学大臣）により選定されるのが「重要伝統的建造物群保存地区」である。

二〇一七（平成二十九）年六月一日現在、日本全国では九十四市町村で一四地区ある。京都府では次の七地区が選定されている。

- ・産寧坂（京都市東山区 門前町として）
- ・嵯峨鳥居本（京都市右京区 門前町として）
- ・美山町北（南丹市 山村集落として）
- ・伊根浦（伊根町 漁村集落として）
- ・祇園新橋（京都市東山区 茶屋町として）
- ・上賀茂（京都市北区 杜家町として）
- ・加悦（与謝野町 製織町として）



（美山かやぶきの里）

（授業のために）

古典文学に出てくる服装について、「絵巻物」などを資料にして、レポートを作成させてみよう。（中・高）

(4) ことばと文学

日常使われている京都方言は、大きく「丹後方言」、「丹波方言」、「山城方言」に分類できる。一般的にいわれている「京ことば」とは、「山城方言」の一部を指している。

さらに、「京ことば」は、「御所ことば」、「室町・商人ことば」、「西陣・職人ことば」、「祇園・花街ことば」、「各伝統産業の専門用語」など、様々に区分される。加えて、京都周辺語として「八瀬方言」、「大原方言」、「深草方言」、「宇治方言」、「南山城方言」などに細分化することができる。

「丹後方言」や「丹波方言」にも音韻やアクセントなどの地域差があり、更に細かく分類できる。

「ことば」は、わたしたちの認識の基礎となるものである。その地域特有の「ことば」は、そこで暮らす人々の考え方や生活の在り方に根ざすものも少なくない。

「ことば」の地域的な使い方や差異を比較検討することは、その地域の生活感や感情がどのように継承され、同時に失われつつあるのかを考える契機となる。それは、今日の「時代」や「文化」を考へることにもつながっていく。また、「ことば」について考えることは、地域への興味・関心を喚起するにとどまらず、今日失われつつある世代間のコミュニケーションを促進させたり、地域の人々と交流したりすることにつながることも可能である。

平安時代の文学作品は、その多くが京都で書かれ、京都を舞台としている。また、多くの歌人が京都の風景を和歌に詠み込んでいる。

今日の京都のイメージは、このような和歌や文学作品を端緒として、形作られたものが多いはずである。と同時に、今日失われてしまった感覚が、作品の中に息づいていることもある。古典を学ぶ意義の一つがそこにある。

平安時代の古典文学には、『枕草子』などの随筆や『蜻蛉日記』^{かげろう}に始まる女流日記、『源氏物語』に代表される物語文学や『大鏡』などの歴史物語があり、中世では、『平家物語』などの軍記物語や『方丈記』・『徒然草』の随筆など、京都にゆかりのある作品は枚挙に暇がない。

古典文学における古語の響きや、語りの息づかいなどを味わうためにも、古典を原文で読んで欲しいとは思ふものの、原文の解釈は、なかなか容易ではない。近年は、研究書や作家による現代語訳に加え、漫画化されたものまで、多様なテキストで古典作品に触れることが可能である。方法はともあれ、まずは古典に触れ、興味を持つことが第一であろう。

散文では、解釈や通読がどうしても困難で、古典を取り上げにくいという場合は、韻文から入るのがよいかもしれない。

(授業のために)

自分たちが日常使っていることば(方言)について調べさせてみよう。(小)

「方言(地域語)」の考察を通して、それぞれの地域の特徴について考えさせてみよう。(中・高)

(授業のために)

地域に残された「伝承」や「説話」を調べさせてみよう。既に本になっているものがあれば、読書活動の一環として取り上げてみよう。(小・中)

やまとうたは人の心を種としてよるづの言の葉とぞなれりける

『古今和歌集』仮名序で、紀貫之が表したように、和歌には様々な感情が様々なことばとなって織り込まれている。

京都府内には、多くの歌枕が存在する。また、多くの歌人が、京都の風景を和歌に詠み込み、そのイメージが定式化し、そのイメージに基づいて新たな歌が詠まれていく。

由良のとをわたる舟人かぢを絶えゆくへも知らぬ恋の道かな 曾禰好忠

朝ぼらけ宇治の川霧たえだえにあらはれわたる瀬々の網代木 権中納言定頼

みかの原わきて流るるいづみ川いつ見きとてか恋しかるらむ 中納言兼輔

前にあげた和歌は、いずれも『小倉百人一首』に採られたものだが、これらが人々にその地のイメージを喚起し、そこを訪ねたことのない人々の憧憬をかき立てたことは想像に難くない。ガイドブックさながら、ことばと風景との一体化が図られる。

地域との関わりでいえば、その土地に残された伝承や伝説、説話などを取り上げることでもできる。民間伝承や昔話をその土地のことばで語ることができる語り部は、ほとんど少なくなくなってきているが、近年は、それとは違う形式ではあるものの、朗読ボランティアによる読み聞かせの取り組み等も見られるようになってきた。「ことば」との関わりで言えば、語られる生きたことばに触れることの意義は大きいし、また、自分たちで語ってみるというのも「ことば」への興味づけとしては意味がある。そういう点では、地域で歌われている「わらべうた」を扱うのも一つの方法である。

また、近現代の文学作品にも京都を舞台としたものは多い。

森鷗外や夏目漱石、梶井基次郎に川端康成、谷崎潤一郎、三島由紀夫、水上勉などから、山村美紗や西村京太郎、夢枕漢や浅田次郎、最近では万城目学や森見登美彦など様々なジャンルを手がける作家が府内各地をその作品の舞台に選んでいる。

それは、多岐にわたる作品を許容しうる魅力が京都は備えているということであり、京都が作家たちの創作意欲をかきたてる魅力にあふれているということである。

(授業のために)

それぞれの地域を詠んだ和歌(「百人一首」)を調べさせてみよう。(全)



(宇治川)

(授業のために)

現代のことばへの古典作品の影響を考えさせ、具体的な作品にふれさせてみよう。(全)

(授業のために)

京都府を舞台にした作品について、どの地域が描かれているかを調べ、関心の持てる作品を讀ませてみよう。(全)

文学作品の舞台となった場所を訪ねるフィールドワークを計画してみよう。(高)

(5) 伝統文化・伝統芸術・スポーツ

「茶道」

京都における茶の栽培は、平安時代初期から行われていたとされるが、本格的になってきたのは鎌倉時代になってからである。南北朝時代末期に「宇治茶」が登場し、その後、室町時代から盛んになってきた「茶の湯」により、更に大きく成長した。

「茶道」とよばれるようになったのは、室町時代の村田珠光じゅこうや武野紹鷗しやうおうを経て、千利休が安土桃山時代に大成してからである。茶道の普及は、茶道具や竹細工、指物など工芸の発展にも大きな影響を及ぼした。

「華道」

室町時代に京都で既に成立し、全国へ伝わったといわれている。まず、座敷の床の間を飾る立花様式が定まり、その後、花そのものを鑑賞するようになった。十六世紀の中ごろ、池坊専応せんおうは、花伝書『専応口伝』を著した。

今日の華道には江戸時代からの流れを伝えているもの、寺院の本山を本拠とするもの、明治時代以後に独立して成立したものなどがある。外国でも「IKEBANA」として日本独特の芸術として知られている。

「香道」

一定の香木を作法どおりに薫たき、香りを楽しむもので、香は仏教伝来とともに日本に伝わった。平安時代から衣服や部屋などに香を薫きしめる風習が生まれ、室町時代に香道として確立された。

「雅楽」

平安時代の宮廷では、古来より日本に伝わる舞や音楽とアジア諸国から伝わった舞やその伴奏音楽とが融合し、儀式や行事のために整えられた。これが「雅楽ががく」である。

当時の寺院や宮中で隆盛を極めた「雅楽」は、庶民の音楽と相互に作用し合いながら後の文化に大きく影響したと考えられ、現代にも受け継がれている。たとえば「千秋楽」や「やたら」「打ち合わせ」「調子」などの言葉は雅楽に由来しているなど、千二百年後の今に伝わるものが少なくない。

「能・狂言」

金閣が建立され北山文化が花開いた室町時代前期、芸能に携わる人は優れた能力を持った集団とし



(茶道具)

(授業のために)

「道」のもっている意味を考えさせてみよう。(高)

て敬うべき存在であると同時に賤視される存在となっていたが、足利義満は観阿弥・世阿弥父子を保護し、彼らは「猿楽」を芸能として大成させ、「能」や「狂言」の基礎を築いた。「能」は「猿楽」や「田楽」をその源流として、優美さや幽玄の境地を加え、より洗練された芸能として大きく発展する。「狂言」は、能と能の幕間に演じられることが多い。猿楽本来のユーモアやこっけいさを伝えるものである。

室町時代末期には「能・狂言」は、ほぼ現在の形に整えられ、江戸時代以降の「歌舞伎」や「文楽」など様々な文化に大きく影響した。現在も京都には、能楽シテ方の金剛流の金剛宗家や観世流の片山家、狂言の大蔵流の茂山千五郎家、茂山忠三郎家などがある。

「歌舞伎」

藤原氏によって大宰府に左遷された菅原道真公を祀り、学問の神様として名高い「北野天満宮」では、出雲の阿国が「かぶき踊り」を披露したとされる。そして、これが紆余曲折を経ながら後の「歌舞伎」へと発展していくのである。

「能」や「狂言」を題材にした「文楽」と影響し合いながら、伴奏楽器に当時として最新の楽器である三味線を加えた「歌舞伎」は、江戸時代の最も華やかな大衆芸能として一世を風靡した。今も神楽などと並び、地域の財産として子ども歌舞伎を受け継ぎ、大切に保存している町が府内に残っている。現存する数少ない歌舞伎劇場の中で、京都市東山区の「京都四條南座」は我が国最古の歌舞伎座と言われている。十二月に行われる「顔見世興行」は京都のみならず、全国的にも師走の風物詩として親しまれている。

「京舞」

江戸時代中期より後期にかけて、上方で、「能」や「歌舞伎」の要素を取り入れた日本舞踊である「上方舞」が流行した。そのなかで京都独自に発展した舞を「京舞」といい、春の「都をどり」で知られる井上流（京都府指定無形文化財）、京舞最古の流派である篠塚流がある。

「絵画」

狩野永徳や狩野探幽、尾形光琳、俵屋宗達、雪舟など小中学校の教科書に名を連ねる絵師の多くが政治・文化の中心であった京都で活躍し、数多くの作品を残している。

一八八〇（明治十三年）年に京都府画学校が開設されたり、一九〇六（明治三十九年）年に関西美術院が建てられたりして、多くの画家たちが育つ環境が整えられた。

明治以降では、日本画で竹内栖鳳、菊池芳文、山元春挙、土田麦僊、小野竹喬、村上華岳らが活躍した。竹内栖鳳の弟子で、日本画家として「女性」を描き続けた上村松園は、一九四八年に日本人女

（授業のために）

「能・狂言」などの伝統芸能から一つ選んで調べさせてみよう。

可能であれば、実際に鑑賞する機会を作り、感想を交流させてみよう。（全）

（授業のために）

図書館で美術書を見たり、実際に美術館等に行って、芸術作品に触れる機会を作り、鑑賞させてみよう。（全）

性初の文化勲章を受章した。日本画家の上村松篁は子、上村淳之は孫にあたる。
洋画では、浅井忠、安井曾太郎、津田青楓、鹿子木孟郎、須田国太郎らが、京都の画壇を牽引してきた。

「スポーツ」

宮中の遊技であった蹴鞠をはじめ、京都を中心に発展したスポーツは多い。

武徳殿は、一八九九（明治三十二）年大日本武徳会の演舞場として竣工した。平安京の大内裏にあった道場にちなん建てられたもので、桓武天皇は大極殿の北西、宴の松原に隣接したところに建てられていた道場での武技を奨励し、宮中で競馬や騎射などを展覧する場として利用していたといわれている。この故事にならない、武道の振興と発展への願いが武徳殿に込められ建設された。毎年五月二日から四日間にわたり、日本全国はもとより世界各地から錬士六段以上の三千人を超える剣士が集う演武大会が京都市岡崎の武徳殿で開かれている。

西京極総合運動公園陸上競技場兼球技場は、一九三〇年、昭和天皇御成婚奉祝記念に建設され、一九四六年には第一回国民体育大会が開催された。その後、一九八八年には、第四十三回国民体育大会の開・閉会式、陸上競技の会場となった。また、この競技場をホームスタジアムとしているプロサッカーチームに「京都サンガF・C」がある。

コラム⑩ 「国民文化祭」・「高校生伝統文化事業」

第二十六回国民文化祭・京都二〇一一が「こころを整える文化発心」をテーマとして、二〇一一（平成二十三）年十月二十九日から十一月六日まで、京都府内各地で開催され、大成功を収めた。国民文化祭は、全国各地で様々な文化活動に親しんでいる個人や団体が、日ごろの成果や実力を披露するため開催地に集まり、発表・交流することにより文化活動への参加の機運を高め、新しい文化芸術の創造を促す「国民最大の文化祭典」であり、京都大会では、府内すべての市町村で、約七十のフェスティバルが実施された。府立高校生をはじめとする多くの児童・生徒も国民文化祭の様々な場面で活躍し、その成功に寄与する大きな力となった。

また、同じ平成二十三年度には、京都府教育委員会による「高校生伝統文化事業」が始められた。この事業は、府立高校において、伝統文化への関心を高めるとともに豊かに生きる力をはぐくむことを目的としており、全四十六校で茶道を通じての伝統文化の学習が実施されたことに加え、六校では華道を通じての伝統文化の学習も実施された。講師に茶道・華道の専門家を迎えて各校が工夫を凝らしながら取り組んでおり、豊かな伝統文化が息づく「京都ならではの」学習となっている。

（授業のために）

京都の映画づくりも伝統芸術の一つに数えることもできる。

京都で映画づくりが盛んになった理由について調べさせてみよう。（中・高）

（授業のために）

京都ゆかりの五輪メダリストについて調べてみよう。（中・高）



（PR隊長 まゆまる）

(6) 京都府の教育の底流にあるもの（伝統を守る・伝統を創る）

京都府における近代教育は、江戸時代から培われてきた町衆の教養や学問的風土を基盤としつつ、中世以来築かれてきた町組織を生かした形で始まった。新しい教育を始めるに当たって、独自の文化や伝統が生かされ、継承されている点が京都の教育の一つの特質である。更に、京都府では、全国でもっとも早い時期に小学校が設立されている。日本初の小学校は、京都市域に誕生したが、府内各地でも、同時期に小学校が設立されている。

例えば、京都市に隣接する宇治市では、一八七二（明治五）年に宇治小学校が開校されている。

また、丹後地域においても、一八六九（明治二）年、現在の峰山小学校の前身である不断町小学校が開校している。

更に、特別支援教育の分野でも、京都盲啞院が一八七八（明治十一）年に開校し、日本の特別支援教育の発祥として知られている。京都府では、府内の広い範囲で、また普通教育に限らず様々な分野において、新しい教育への取組が早くから始まっていたのである。

また、人権教育について、児童生徒が基本的な人権や同和問題をはじめとする様々な人権問題について正しく理解し、課題解決に向けて行動できる力を身に付けるため、京都府では早くから、あらゆる教育活動を通して人権教育への取組が推進されてきた。

以来今日まで、京都府では、先取の精神に満ちた特色ある教育が展開されてきている。京都府教育委員会では、そのような教育に対する京都府の精神や見識を示すものとして、「求められる京都府の教員像」を明示し、『教師力』向上のための指針（平成十九年六月）としている。次に示す内容は、教師個々に求める目標であると同時に、京都府の教育の基盤を支える伝統的な精神であるとともに、新たな創造の方向を指し示すものとして大切にしたい。

コラム⑫ 「求められる京都府の教員像」（『教師力向上』のための指針より）

- 児童生徒に対する教育的愛情と、教職に対する使命感・情熱を持っていること。
- 豊かな感性を持ち、明朗かつ健康で、人間的魅力にあふれていること。
- 高い「授業力」を持ち、児童生徒に確かな学力を付けることができること。
- 社会的良識と自ら学ぶ意欲を持ち、児童生徒や保護者、職場の同僚、地域の人から信頼されること。
- 「ふるさと京都」への理解と愛情を深めるとともに、国際的な視点に立った教育を推進することができること。



（全）

↓京都府ホームページ「人権ゆかりの地をたずねて（乙訓・南山城編）『寺子屋庶民の学びの場』」参照。

↓京都府ホームページ「人権ゆかりの地をたずねて『盲啞院（日本初の障害児教育）』」参照。

↓京都府ホームページ「人権ゆかりの地をたずねて『全国水平社創立の地』」参照。（『人権教育資料集 高等学校編』p九一にも掲載）

（授業のために）

京都府教育委員会が毎年作成する「人権教育を推進するための」を踏まえた人権教育の取組を進めるとともに、教職員自身が学びと気づきを深めよう。

(7) 子どもたちの確かな未来のために

京都府教育委員会は、二〇〇一（平成十三）年に『京の子ども、夢・未来』プラン21」を策定し、子どものための京都市少人数教育」の導入や「親のための応援塾」の開設など、国の動きに先んじて多くの教育改革に積極的に取り組んできた。二〇一一（平成二十三）年一月には、子どもたちの確かな未来のために、社会状況の変化等を踏まえ、京都府教育振興基本計画「京都府教育振興プラン」を策定した。「京都府の教育の基本理念」、「目指す人間像」は次のとおりである。

山城地域から丹後地域まで、京都府内の各地域において先人が積み重ねてきた伝統・文化、知識や技術などは、人々の営みの中から生み出された、生きていくための「力」であり、ふるさと京都が誇る「知恵」であると言えます。

それぞれのふるさとに息づく様々な「知恵」を理解し、大切にすることで、その「知恵」を過去から現在、そして未来へとしっかりと受け継いでいく。

受け継いだ「知恵」を自らのものとし、自らの成長とともに新たな視点を取り入れて、さらに豊かなものにしていく。

これらに楽しさや喜びを感じられることが、一人一人が京都の未来を創造していく力になります。また、これからの時代の地域を支えるのはそこに住む人々の総合的な力であり、地域づくりの基本となるのは「人づくり」です。人づくり、すなわち教育こそが、京都の明日を切り拓く原動力となるのです。

京都府教育委員会では、教育基本法に掲げられた教育の基本理念を踏まえつつ、今後目指す人間像を次のように考え、京都府ならではの教育を通じて、子どもから大人まですべての人々が生涯にわたって力強く歩み続けることができる人づくりを進めていきます。

（目指す人間像）

◆ 歴史と伝統にはぐくまれた京都の知恵をつなぎ、自然、人、社会とつながる人

礼儀と規律を重んじ、人を思いやり共に助け合い、積極的に社会と関わりながら、地域ではぐくまれた文化を愛し育て、次代の京都を支える人間

◆ 積み重ねられた知恵を活用し、新しい価値を創り出して世界に発信する人

高い志とグローバルな視野を持って、自らの能力や可能性を最大限に伸ばし、創造力豊かにこれからの社会づくりに貢献できる人間

（京都府庁旧本館）

（授業のために）

自分の学校の歴史について調べさせてみよう。また、自分の学校の自慢は何か、考えさせてみよう。（全）

（授業のために）

各学校の「校訓」などに描かれている「目指す児童生徒像」を、児童生徒がどのように認識しているか。学齢に応じて、ディスカッションなどをさせてみよう。

（全）

第三章 「地域の特質」から見た京都府

(1) 乙訓

現在の向日市、長岡京市、大山崎町の全域と、京都市の南西部を含んだ地域を指す。この地域は、早くから開け、弥生時代には向日丘陵から伸びる長岡南端に大きな集落、神足遺跡が営まれた。四世紀から五世紀前半には、向日市の寺戸大塚古墳や長岡京市の恵解山古墳、大山崎町の鳥居前古墳などが造られた。この時期以降に、向日神社や乙訓神社(角の宮)、乙訓寺も造られたと伝えられている。七八四年には、平城京から長岡京遷都があり、十年間、都としての役割を担った。平安京に遷都された後も、西国街道が整備され、長岡天満宮をはじめ、現在に続く多くの神社が建立され、にぎわった。また、大山崎油座は、鎌倉時代から戦国時代にかけて、荏胡麻油の製油・販売を独占的に扱い、日本最大規模の油座であった。

現在、(公財)京都府埋蔵文化財調査研究センターが向日市に所在し、長岡京跡の調査はもとより、府内全域にわたる埋蔵文化財の調査研究が進められている。

明治以降、鉄道や道路網が整備されるとともに、人口が増加し、一九七二(昭和四十七)年には、乙訓郡向日町・長岡町が、それぞれ「向日市」、「長岡京市」になった。現在は、JR、私鉄、国道、名神高速道路等と交通網も更に充実し、大阪市内、京都市内へのアクセスもよく、発展を遂げている。特産品としては「たけのこ」が、春の京都の食べ物・物の代名詞として扱われ、全国的に有名である。産業としては、第二次産業・第三次産業が盛んである。

コラム⑬ 「天王山」

大山崎町にある山。羽柴秀吉(後の豊臣秀吉)が、明智光秀を破った「山崎の合戦」(一五八二年)で、この山を制した方が天下を取るようになった。後に「天王山」は「勝負を決める大事な局面。勝敗の分かれ目」という意味を持つようになった。

(授業のために)

現在、児童生徒が住んでいる地域の「市・町・村」について、どのような変遷をたどってきたか、調べさせてみよう。(全)



(天王山山頂)

(授業のために)

地元の地名や行事が、ことわざや慣用語として使われている例があれば、理由も含めて調べさせてみよう。(小・中)

(2) 山城

山城地域は、北は京都市、南は奈良県、東は滋賀県と三重県、西は大阪府と接する地域で、現在の宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、木津川市、久御山町、井手町、宇治田原町、精華町、笠置町、和束町、南山城村の五市六町一村からなる地域を指す。

地形としては信楽山地、西山、京阪奈丘陵に囲まれており、桂川、宇治川、木津川が地域の北西部で合流し淀川となつて大阪湾へと注いでいる。温暖な気候に加えこれらの川や緩やかな丘陵地に囲まれ豊かな自然に恵まれたこの地域は早くから文化が栄えた。

京田辺市の薪遺跡や、城陽市の森山遺跡では、縄文時代の集落が確認されている。弥生時代の遺跡には環濠集落の久御山町市田沓当坊遺跡、山の上に造られた木津川市木津城山遺跡などがあり、多くの土器や石器も出土している。飛鳥時代から奈良時代にかけては、高麗寺跡、平川廃寺など、多くの寺院が小地域ごとに営まれた。

平安時代中期以降、浄土信仰と末法思想の広がりとともに笠置寺、岩船寺、浄瑠璃寺、海住山寺、三室戸寺などが建てられ人々の信仰を集めた。

現在、世界文化遺産になっている宇治上神社は日本最古の神社建築であり、鎌倉前期に建てられた拝殿は寝殿造の様子を伝えるものとされる。平安時代成立の長編物語である『源氏物語』は橋姫の巻から最終巻までの十巻は「宇治十帖」と称され宇治を舞台としている。

平安時代の山城地域は、東大寺や興福寺、石清水八幡宮、藤原氏などを領主とする荘園が置かれ、奈良や京都の文化の影響を大きく受けて発展した。

南北朝の対立により戦乱に巻き込まれた山城一帯ではあるが、室町幕府の全盛期ごろには再び活気を取り戻した。商業が発達し、現在特産品となっている宇治茶や果物、れんこんなどの栽培が盛んになった。特に、宇治茶の生産は足利將軍の保護のもとに盛んに行われ、日本一のお茶所になる。また、室町時代から江戸時代にかけて茶の湯が盛んになると同時にその道具も重宝されるようになる。宇治の朝日焼は小堀遠州により茶器名品の一つに数えられるようになった。

十五世紀後半に起こった応仁・文明の乱（一四六七～七七年）の中で、力を付けてきていた民衆たちが立ちあがり、山城の国一揆を起こしている。禅宗に関しては、江戸時代に日本三禅宗の一つ黄檗宗の総本山黄檗山萬福寺が建てられた。

現在、京都、大阪、奈良にまたがる京阪奈丘陵には「関西化学術研究都市」の建設が進められている。この「けいはんな学研都市」は、産・学・官の協力と連携のもとに開発が進められ、今後の発展が期待されている。

（授業のために）

古来より山城は伝説・伝承が豊かに息づいている地域である。地域で伝承されている昔話などを調べて発表させてみよう。（小・中）

（授業のために）

山城地域では数多く歌枕がある。『国歌大観』などを活用して和歌に詠まれている、歌枕を探してみよう。（高）

（授業のために）

現在一般的に飲まれている日本茶の製法は、江戸時代に宇治田原の永谷宗円によってつくられたものであるといわれている。

山城の各地域の名産品（特産品）について、調べさせてみよう。（全）

(3) 南丹

大江山いく野の道の遠ければまだふみも見ず天の橋立

小式部内侍

「大江山」は京都市西京区と亀岡市の境にある「大枝山」のことと考えられる。この大枝山を越えた地域が「丹波」で、古くは京都府北部や兵庫県東部までが丹波の国であった。現在の亀岡市、南丹市、京丹波町が南丹地域である。さらに時を遡ると、このあたりは海底であった。京丹波町質志に、そのことを物語る質志鐘乳洞がある。

弥生時代の余部遺跡（亀岡市）からは、兵庫県豊岡産と推定される碧玉を使った管玉が出土している。次いで古墳時代となり、黒田古墳、園部垣内古墳や千歳車塚古墳などの前方後円墳は、ヤマト（大和）王権との強い結びつきを示している。

律令制下においても、「国府」が亀岡市千代川町や南丹市八木町にあったようだ。亀岡市には「丹波国分寺跡」や「丹波国分尼寺跡」もあり、この地域は丹波の国の政治や文化の中心地であった。亀岡市には瓦や土器をたくさん焼いた篠窯跡群があり、平安京の造営にも、この地は深く関わっている。

中世においては、足利尊氏の足跡がある。亀岡市篠八幡宮の「旗立て柳」がそれである。尊氏はここで兵を集め、都に攻め上った。室町時代には、細川氏が守護としてこの地を治めた。南丹市八木町の八木城は守護代内藤氏の居城であった。近世になると、明智光秀の所領となり、光秀は亀山城をその居所とする。光秀を討った豊臣秀吉もこの地域を重視し、『聚楽第』の造営などで、この地域の材木が使われた。またこの時期の異色な存在に、内藤ジョアンがいる。ジョアンは、文禄の役（一五九二年）で活躍したとされるが、キリシタンであったため、ルソン（マニラ）に逃れた。南丹市（旧八木町）とマニラの姉妹関係は、ジョアンが取り持つ縁といえよう。

江戸時代は、丹波亀山藩と園部藩がこの地域を治めた。江戸時代には、文化面で特色を見ることが出来る。「石門心学」の石田梅岩、『雪松図屏風』の円山応挙は、ともに亀山の出身である。また、園部藩（現京丹波町大迫）には、「和知人形浄瑠璃」（京都府指定無形民俗文化財）がある。明治・大正期には途絶えていたが、昭和に再興され「和知人形浄瑠璃」として今に引き継がれている。

一八七六（明治九）年、アメリカからウィード氏を招き『京都府農牧学校』が創設され、クラーク博士の札幌農学校とともに三大農牧学校の一つとなる。現在の京都府立須知高校がその後継である。

また、鉄道の敷設も大きな変化をもたらした。京都鉄道は、亀岡市出身の田中源太郎が中心となつて、一八九九（明治三十二）年に京都・園部間が全通し、国鉄となった後、園部・綾部間も開通した。

日吉駅は、丹波高地の木材を搬出する一大拠点として発展し、和知においても、木材を由良川に一旦流して、和知駅から鉄路で運べるようになった。

（授業のために）

児童生徒にフィールドワークをさせてみよう。遠足などの学校行事に組み込んでもよい。（全）



（京都府農牧学校校跡）

大正時代、和知からはレアメタルであるタングステンも鉄道で運ばれた。

今日のこの地域は、京都・園部間の複線電化や京都縦貫道などの交通網が整備され、京都や大阪の衛星都市として発展している。機械関係や食品関係の企業も進出しており、農業の面でも、水菜・九条ネギ・壬生菜などの京野菜の一大産地で、栗、松茸、黒豆など名産品も多い。また『保津川下り』『美山かやぶきの里』などの観光資源もあり、多くの観光客が訪れる。かやぶきの里は、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。また、周山街道は『西の鯖街道』とも呼ばれている。

(4) 中 丹

かつての丹波の北部と丹後の南部を指す地域で、綾部市、福知山市、舞鶴市にあたる。

海と接する舞鶴市では、縄文時代前期のものが見られる丸木舟、北陸地方の特徴を持つ土器や耳飾りが出土していて、当時のこの地域の人々が、海を渡って幅広い地域と交流していたことがうかがえる。一方、内陸部では、かつての大勢力圏である出雲・丹後と畿内との接点に当たったため、交通・文化などの面で重要な位置を占めていたことをうかがわせる遺跡や出土品などが見つかっている。

福知山盆地は、府内で最も古墳の多い地域の一つで、景初四年銘の銅鏡が出土した広峰十五号墳などもある。

また、京都・滋賀・福井の府県境にある三国岳を源とする由良川が、いくつもの支流と合流しながら、綾部市から福知山市、そして舞鶴市へと、この地域を貫くように流れている。そのため、この地域の人々の暮らしは、漁業や農業をはじめとした産業、人々の交通や物品輸送、生活用水の確保など、様々な面で由良川を有効に活用しながら豊かになってきたといえる。一方で由良川は、たびたび大きな水害をもたらした川でもあるため、流域の人々の暮らしは、治水の歴史でもある。

この地域には、足利尊氏の生誕の地との説がある安国寺（綾部市）、明智光秀が築いた福智山城（福知山市）、細川藤孝（幽斎）が築いた田辺城（舞鶴市）など、歴史上の人物ゆかりの地も多く見られる。近年は、近畿自動車道敦賀線（舞鶴若狭自動車道）や京都縦貫自動車道などの高速道路の整備や、地域を環状に一巡する鉄道交通網が形成されるなど、京都府内を始め、京阪神など、他の地域とのつながりが一層強くなっている。

コラム⑭ 「丹波の漆かき」（京都府指定無形民俗文化財）

漆の木に傷をつけて出てくる樹液を採取する作業を漆かきという。漆掻きの技術は、現在近畿で唯一福知山市夜久野町で伝えられ、京都の高度な漆工芸などを支えた「丹波の漆かき」（京都府指定無形民俗文化財）として知られている。需要の減少と安価な輸入漆により全国的に漆の生産が減退していったが、福知山市では丹波漆生産組合の活動により貴重な技術を伝承している。

（授業のために）

福知山の漆のように、地元で伝わる伝統的な産業について調べさせてみよう。（小・中）

産業構造の変化に伴い、地場産業がどのように変化しているか、調べさせてみよう。（高）

(5) 丹 後

宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町にあたり、京都府北部の地域を指す。歴史的には、七一三（和銅六）年に丹波国の北部、加佐郡、与謝郡、丹波郡（後の中郡）、竹野郡、熊野郡の五郡を丹後国とされた。丹後国は、現在の舞鶴市や福知山市の一部も含まれており、現状とは一致しない。

鳴き砂で有名な「琴引浜」やそびえ立つ「屏風岩」などがある変化にとんだ海岸線、日本三景の一つである「天橋立」、一階が船の倉庫で二階が居住スペースとなっている「舟屋」の立ち並ぶ様子など、美しい自然や伝統的な建造物が作り出す独特の景観が見られる地域である。

久美浜湾のカキ養殖や舞鶴湾のトリ貝養殖なども生活と結びついた景観を形成している。

この地域では、弥生時代後期の国内最大級の方形墳丘墓である赤坂今井墳墓をはじめ、四く五世紀の全長が百mを超える前方後円墳である網野銚子山古墳や神明山古墳など、多くの遺跡が発見されていて、「魏」の年号が記された銅鏡や「後漢」で製作されたとされるガラスの腕輪など海外との交流を示す貴重な遺物が出土している。そのため、日本海に突き出た丹後半島を中心としたこの地域は、かつては大陸との交流の玄関口であり、大陸との交易などで栄えた一大勢力（「丹後王国」などと呼ばれる）が存在していたのではないかと考えられている。

また、この地域は、古くから養蚕が行われ、絹織物が特産品として生産されていた。奈良の正倉院には、現在の京丹後市（弥栄町）から送られた「あしぎぬ」と呼ばれる絹織物が今も残されていることからそのことがうかがえる。江戸時代には、絹屋佐平治（後に森田治郎兵衛と改名）たちが京都西陣より技法を持ち帰り、「丹後ちりめん」の生産が始められた。従来「丹後ちりめん」は着物の素材として白生地のまま売られることが多かったが、近年では新たな加工技術が開発され、新しい商品づくりも進められている。

コラム⑬ 「丹後七姫伝説」

丹後地域には、乙姫（浦島太郎伝説）、羽衣天女、はしうど間人皇后、小野小町、静御前、細川ガラシヤ、安寿姫の七人の女性に関する伝説や逸話が伝えられていて、それらの伝説にまつわる石碑や神社等が、観光スポットとして紹介されている。一九八五（昭和六十）年に峰山青年会議所が観光シンボルとして設定したもの。

（授業のために）

地元には伝わる昔話や言い伝えなどを調べさせてみよう。（小・中）

『丹後国風土記』逸文に残されている羽衣伝説について、後世の文学・芸能にどのような影響を及ぼしたか、調べさせてみよう。

（高）

（授業のために）

地元の自然や観光資源を探し、それらを活用した地域の活性化策を考えさせてみよう。（中・高）

【資料】

【明治以前の主なことから】

- 740年 恭仁京建都
- 784年 長岡京建都
- 794年 平安京建都
- 1338年 室町幕府成立
- 1467年 応仁・文明の乱（～77年）

京 都 府 歴 史 年 表 （明治以降を中心に）

【明 治】

- 慶応4年元旦 京都裁判所を京都府と改称（府庁舎＝神泉苑西）、
（1868） 初代知事 長谷信篤。
- 2年（1869） 明治維新（東京遷都） 4年（1871年） 府県合併により京都府は
山城・丹波3郡（桑田・船井・何鹿）を管轄。
- 9年（1876） 豊岡県廃止、天田郡・丹後5郡が府の管轄に。
- 10年（1877） 京都駅誕生。京都神戸間鉄道開業。
- 12年（1879） 府議会初めて開かれる（定数95名）。
- 18年（1885） 府庁舎を現在地に移す。
- 22年（1889） 京都市誕生（市制特例で市長は知事が兼務）。
京都から宮津間車道工事完成。
- 23年（1890） 琵琶湖疏水完工。
- 28年（1895） 平安遷都1100年紀年祭。平安神宮創建。
- 29年（1896） 奈良鉄道京都奈良間開通（現JR奈良線）。
- 30年（1897） 舞鶴鎮守府（東港）を設置。
- 31年（1898） 市制特例廃止、京都市の一般市制実施。
京都府図書館（現在の府立図書館）開館。
- 32年（1899） 京都鉄道京都園部間開通（現JR山陰本線）。
- 37年（1904） 府庁舎（現旧館）完工（着工は33年）。
- 43年（1910） 園部綾部間（京都線）鉄道開通（京都から東舞鶴までつながる。）
- 45年（1912） 第二疏水完工。京都市電運転開始。

【大 正】

- 6年（1917） 由良川・木津川修築工事竣工。
- 10年（1921） 大学令による府立医科大学設立認可。
- 12年（1923） 郡制廃止。
- 13年（1924） 府立植物園開園。
- 14年（1925） 丹後鉄道宮津線西舞鶴峰山間開通。

【昭和】

- 2年（1927） 普選法施行後初の府会議員選挙（定数41名）。
- 16年（1941） 巨椋池干拓工事完工（着工は昭和8年）。
- 20年（1945） 敗戦。連合軍、京都市に第6軍司令部を置く。
- 21年（1946） 第1回国民体育大会開催。
- 22年（1947） 木村惇、初代公選知事に当選。初の市町村長公選。
- 23年（1948） 府公安委員会、教育委員会設置。
- 24年（1949） 府立西京大学（現府立大学）設立。
- 25年（1950） 蜷川虎三、公選二代目知事に当選。
- 26年（1951） 舞鶴港、特定重要港湾に指定。
- 30年（1955） 若狭湾、山陰海岸国定公園指定。
- 31年（1956） 府、財政再建団体の指定を受ける。
- 34年（1959） 市町村合併終結、44市町村となる。阪鶴道路舗装完工。
- 36年（1961） 大野ダム、大野発電所完工。
- 37年（1962） 府、財政再建完了。府立中小企業指導所開所。丹後半島一周道路開通。
- 38年（1963） 同和教育の基本方針策定。府立総合資料館開館。山陰海岸国立公園指定。
- 45年（1970） 立丹後郷土資料館、府立文化芸術会館開館。府立丹波自然運動公園開園。
- 46年（1971） 府立体育館完成。
- 49年（1974） 長田野工業団地完成。
- 51年（1976） 府立海洋センター開所。府立ゼミナールハウス開館。府章・府旗制定。
- 53年（1978） 林田悠紀夫、公選三代目の知事に当選。
- 54年（1979） 府碓高原総合牧場開場。
- 55年（1980） 府丹後文化会館開館。丹後縦貫林道開通。
- 56年（1981） 府消費生活科学センター開所。
- 57年（1982） 府スポーツ賞制定。府立山城郷土資料館開館。
府立山城総合運動公園、府立青少年海洋センター、
府立伏見港公園総合体育館、京都子ども文化会館オープン。
- 58年（1983） 府文化賞創設。府中丹文化会館開館。中国陝西省と友好提携。
- 59年（1984） 国鉄奈良線（京都から奈良）等電化。
- 60年（1985） 世屋高原家族旅行村開村。インドネシア共和国ジョクジャカルタ特別区、
米国オクラホマ州と友好提携。
- 61年（1986） 荒巻禎一、公選四人目の知事に当選。京都フラワーセンター開所。
- 62年（1987） 府立宮津ヨットハーバー完成。府総合見本市会館開館。
近畿自動車道敦賀線（丹南篠山口から福知山）開通。
- 63年（1988） 都縦貫自動車道（沓掛から千代川）、京奈和自動車道（城陽から田辺西）、
京滋バイパス開通。宮福鉄道宮福線開通。京都国体開催。
府長岡京記念文化会館、府京都文化博物館、府立府民ホール開館。

【平成】

- 元年（1989） JR片町線（木津～長尾）電化。宮福鉄道が北近畿タンゴ鉄道（KTR）に。
- 2年（1990） 第4次府総合開発計画策定。府道路公社設立。KTR宮津線転換開業。
JR山陰本線（京都から園部）電化。
- 3年（1991） 近畿自動車道敦賀線（福知山から舞鶴西）、京奈和自動車道（田辺西から精華下狛）開通。第42回全国植樹祭開催。
- 4年（1992） 府立植物園観覧温室オープン。府立堂本印象美術館開館。
- 5年（1993） 全国野鳥保護のつどい、第6回全国健康福祉祭開催。京奈和自動車道（精華下狛から山田川）開通。
関西文化学術研究都市に、けいはんなプラザ、国際高等研究所、地球環境産業技術研究機構が開所。
- 6年（1994） 祝祭・京都創生1200年。府立陶板名画の庭オープン。
ロシア連邦レニングラード州と友好提携。
「古都京都の文化財」がユネスコ世界遺産に登録される。
- 7年（1995） 阪神淡路大震災。丹後マスターズビレッジ、ハートピア京都オープン。
京都伝統工芸専門校開校。舞鶴港喜多ふ頭一部供用開始。
- 8年（1996） 京都府個人情報保護条例制定。京都縦貫自動車道（千代川～丹波）開通。
京都府障害者基本計画策定。JR山陰本線、KTR（園部から天橋立）電化。
- 9年（1997） 地球温暖化防止京都会議開催。全国高校総体「京都総体」開催。
英国エディンバラ市と友好提携。
- 10年（1998） 環境基本計画策定。京都縦貫自動車道（綾部から舞鶴大江）、
近畿自動車道敦賀線（舞鶴西から舞鶴東）開通。日吉ダム完成。
丹後あじわいの郷オープン。第22回世界遺産委員会開催。
- 11年（1999） 人権教育のための国連10年京都府行動計画策定。JR舞鶴線電化。
温室効果ガスの削減目標設定。京都中部マスターズビレッジオープン。
- 12年（2000） 新京都府総合計画策定。世紀をむすんでひらく展覧会開催。
第20回全国豊かな海づくり大会開催。府民の森ひよし開園。
京奈和自動車道（山田川から木津）開通。
- 13年（2001） 新京都府総合計画スタート。JR奈良線高速化・複線化開業。
新府立図書館開館。太鼓山風力発電所完成。
第43回健康・体力づくり運動推進全国大会京都大会開催。
- 14年（2002） 山田啓二、公選五人目の知事に当選。国立国会図書館西館開館。
「京都府産業廃棄物の不適正な処理を防止する条例」制定。
- 15年（2003） 第3回世界水フォーラム、京都文化会議2003開催。
京滋バイパス全線開通。
- 16年（2004） 京都府男女共同参画推進条例公布。府庁旧本館竣工100周年。
- 17年（2005） 京都議定書発効。京都迎賓館が開館。新京都府人権教育・啓発推進計画、
中期ビジョン『「人・間（にんげん）中心」の京都づくり』策定。

- 18年（2006） 地球温暖化対策推進計画策定。「子ども・地域安全見守り隊」結成。
第30回全国高等学校総合文化祭」（京都総文）開催。
府立丹後海の見える丘公園開園。
- 19年（2007） 地域力再生プロジェクトスタート。京都府外国人児童生徒に関する指導の
指針作成。京都府子育て支援条例制定。京都ジョブパーク開設。
丹後天橋立大江山国定公園誕生。第40回アジア開発銀行年次総会開催。
- 20年（2008） 源氏物語千年紀記念式典開催。丹後・知恵のものづくりパーク開所。
京都縦貫自動車道（綾部安国寺から京丹波わち）開通。
- 21年（2009） 「府民満足最大化プラン」策定。「自然公園ふれあい全国大会」開催。
「京都 知恵と力の博覧会」開催。
「京都祇園祭の山鉾行事」がユネスコ無形文化遺産に登録される。
- 22年（2010） 「新京都府環境基本計画」策定。
新しい府政運営の指針「明日の京都」策定。
山陰海岸が世界ジオパークに認定。山陰線京都・園部間複線化開業。
- 23年（2011） 東日本大震災発生。「第26回国民文化祭」開催。
- 24年（2012） 府立林業大学校開校。京都ジョブパークリニューアルオープン。
文化庁関西分室を京都府庁旧本館に開設。
府立植物園「四季 彩（いろどり）の丘」オープン。
第1回全国高校生伝統文化フェスティバルー伝統文化の甲子園ー開催。
- 25年（2013） 「和食」がユネスコ無形文化遺産へ登録の勧告。
府立総合資料館開館50周年記念シンポジウム開催。
文化庁国際文化フェスティバル「東アジア共生会議2013」開催。
- 26年（2014） 京都クロスメディア・クリエイティブセンター（通称：KCC）オープン。
「海フェスタ京都」開催。「平成26年8月豪雨」被害が発生。
- 27年（2015） 京都府障害のある人もない人も共に安心していきいきと暮らしやすい社会
づくり条例交付。
現代芸術の国際展「パラソフィア」開催。京都縦貫自動車道が全線開通。
京都・和食文化推進会議設立総会。「丹後王国『食のみやこ』」オープン。
府立清明高等学校・府立福知山高等学校附属中学校開校。
「東寺百合文書」「舞鶴への生還」が世界記憶遺産登録決定。
- 28年（2016） 文化庁の京都への全面的な移転が決定。京都丹波高原国定公園誕生。
「京都 宮津湾・伊根湾」の「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟決定。
「きょうと子育てピアサポートセンター」「女性活躍支援拠点 京都ウイメ
ンズベース」「京都府こころのケアセンター」開設。
京都の文化・学習交流の新拠点 府立京都学・歴彩館が一部オープン。
京都府人権教育・啓発推進計画（第2次）策定。

※「京都府の年表」、「府民だより」（京都府ホームページ<http://www.pref.kyoto.jp>）を
基に編集

京都府内図書館等一覧

※休館日については変更等もございますので、直接お問い合わせの上、御確認ください。

	施設名	郵便番号	住所	TEL	休館日
1	国立国会図書館関西館	619-0287	相楽郡精華町精華台8-1-3	0774-98-1200	日曜日・第3水曜日・祝日
2	京都府立図書館	606-8343	左京区岡崎成勝寺町	075-762-4655	月曜日・第4木曜日
3	京都府立京都学・歴史館	606-0823	左京区下鴨半木町1-29	075-723-4831	第2水曜日・祝日
4	京都市中央図書館	604-8401	中京区聚楽廻松下町9-2	075-802-3133	火曜日
5	京都市右京中央図書館	616-8104	右京区太秦下刑部町12 サンサ右京3階	075-871-5336	火曜日
6	京都市伏見中央図書館	612-8051	伏見区今町659-1	075-622-6700	火曜日
7	京都市醍醐中央図書館	601-1375	伏見区醍醐高畑町30-1 パセオダイゴロー西館4階	075-575-2584	火曜日
8	京都市北図書館	603-8214	北区紫野雲林院町44-1	075-492-8810	火曜日
9	京都市左京図書館	606-8103	左京区高野西開町5 左京合同福祉センター2階	075-722-4032	火曜日
10	京都市岩倉図書館	606-0013	左京区岩倉下在地町16	075-702-8510	火曜日
11	京都市東山図書館	605-0862	東山区清水五丁目130-8 東山区総合庁舎南館2階	075-541-5455	火曜日
12	京都市山科図書館	607-8086	山科区竹鼻四丁野町34-1 山科合同福祉センター4F	075-581-0503	火曜日
13	京都市下京図書館	600-8449	下京区新町通松原下ル富永町110-1	075-351-8196	火曜日
14	京都市南図書館	601-8011	南区東九条南山王町5-5	075-691-6888	火曜日
15	京都市吉祥院図書館	601-8349	南区吉祥院池田町1 塔南高校東館1階	075-681-1281	火曜日
16	京都市久世ふれあいセンター図書館	601-8203	南区久世築山町328 久世ふれあいセンター1階	075-931-0035	火曜日
17	京都市西京図書館	615-8236	西京区山田大吉見町20-3	075-392-5558	火曜日
18	京都市洛西図書館	610-1143	西京区大原野東境谷町2-1-2 洛西総合庁舎1階	075-333-0577	火曜日
19	京都市向島図書館	612-8141	伏見区向島二ノ丸町151-35	075-622-7001	火曜日
20	京都市醍醐図書館	601-1436	伏見区石田西ノ坪1-2	075-572-0700	火曜日
21	京都市久我のもり図書館	612-8494	伏見区久我東町216	075-934-2306	火曜日
22	こどもみらい館子育て図書館	604-0883	中京区間之町通竹屋町下ル楠町601-1	075-254-8181	火曜日
23	向日市立図書館	617-0002	向日市寺戸町南垣内40-1	075-931-1181	月曜日・毎月1日
24	長岡京市立図書館	617-0824	長岡京市天神4-1-1	075-951-4646	月曜日・毎月1日
25	大山崎町立中央公民館図書室	618-0091	乙訓郡大山崎町円明寺夏目26	075-957-1421	月曜日・最終木曜日
26	宇治市中央図書館	611-0023	宇治市折居台1-1 宇治市文化センター内	0774-39-9256	月曜日・第4木曜日・祝日の翌日
27	城陽市立図書館	610-0121	城陽市寺田今掘1 文化パルク城陽内	0774-53-4000	月曜日・最終木曜日・祝日の翌日
28	久御山町立図書館	613-0031	久世郡久御山町佐古外屋敷235	0774-45-0003	月曜日・月末日
29	八幡市立八幡市民図書館	614-8082	八幡市八幡菖蒲池12	075-982-7322	金曜日・最終木曜日・祝日
30	京田辺市立中央図書館	610-0331	京田辺市田辺辻40	0774-65-2500	月曜日・最終金曜日・祝日
31	井手町図書館	610-0302	綴喜郡井手町井手二本松3-1 山吹ふれあいセンター1階	0774-82-5700	月曜日・最終木曜日・祝日の翌日
32	宇治田原町立図書館	610-0261	宇治田原町岩山沼尻46-1 総合文化センター内	0774-88-5852	火曜日・祝日の翌日・最終木曜日
33	木津川市立中央図書館	619-0217	木津川市木津町内垣外36	0774-72-2980	月曜日・最終金曜日・祝日
34	精華町立図書館	619-0285	精華町南稻八妻北尻70	0774-95-1911	月曜日・最終木曜日・祝日
35	和束町体験交流センター図書室	619-1205	和束町中平田23-1 体験交流センター内1階	0774-78-4013	月曜日・火曜日・祝日
36	笠置町中央公民館図書室	619-1303	笠置町笠置浜56 笠置町中央公民館内2階	0743-95-2726	土曜日・日曜日・祝日
37	南山城村図書室	619-1411	南山城村北大河原久保17-1 JA京都やましろ南山城村支店2階	0743-93-0522	月・火・木・金曜日
38	亀岡市立図書館中央館	621-0864	亀岡市内丸町26	0771-24-4710	月曜日・最終金曜日
39	南丹市立中央図書館	622-0004	南丹市園部町小桜町63	0771-68-0080	月曜日・最終木曜日・祝日
40	京丹波町中央公民館図書室	622-0214	京丹波町蒲生野口38	0771-82-0988	日曜日・月曜日・祝日
41	綾部市図書館	623-0022	綾部市新宮町91	0773-42-6980	月曜日・最終火曜日・祝日
42	福知山市立図書館中央館	620-0045	福知山市駅前町400 市民交流プラザふくちやま内1、2階	0773-22-3225	月曜日
43	舞鶴市立東図書館	625-0035	舞鶴市溝尻25	0773-62-0190	木曜日・最終火曜日・祝日
44	舞鶴市立西図書館	624-0854	舞鶴市円満寺100-8	0773-75-5406	月曜日・最終水曜日・祝日
45	宮津市立図書館	626-0041	宮津市鶴賀2164	0772-22-2730	月曜日・月末・祝日
46	与謝野町立図書館	629-2262	与謝野町岩滝2271 生涯学習センター知遊館1階	0772-46-2451	月曜日・最終木曜日
47	伊根町立本庄地区公民館図書室	626-0403	伊根町本庄宇治113-1	0772-33-0809	金曜日・祝日
48	京丹後市立峰山図書館	627-0012	京丹後市峰山町杉谷1030 峰山地域公民館3階	0772-62-5101	月曜日・毎月1日
49	京丹後市立あみの図書館	629-3101	京丹後市網野町網野385-1 ら・ぼーと2階	0772-72-4946	月曜日・毎月1日
50	京都ライトハウス情報ステーション	603-8302	北区紫野花ノ坊町11	075-462-4579	日曜日・第2水曜日・祝日

京都府内博物館等一覧

※休館日については変更等もございますので、直接お問い合わせの上、御確認ください。

	施設名	郵便番号	住所	TEL	休館日
1	京都国立博物館	605-0931	東山区茶屋町527	075-525-2473	月曜日
2	京都大学総合博物館	606-8501	左京区吉田本町	075-753-3272	月・火曜日
3	京都国立近代美術館	606-8344	左京区岡崎円勝寺町26-1	075-761-4111	月曜日
4	京都府立図書館	606-8343	左京区岡崎成勝寺町	075-762-4655	月曜日・第4木曜日
5	京都府立京都学・歴史館	606-0823	左京区下鴨半木町1-29	075-723-4831	第2水曜日・祝日
6	京都府京都文化博物館	604-8183	中京区三条高倉	075-222-0888	月曜日
7	京都府立山城郷土資料館	619-0204	木津川市山城町上狛千両岩	0774-86-5199	月曜日
8	京都府立丹後郷土資料館	629-2234	宮津市国分天王山611-1	0772-27-0230	月曜日
9	京都府立植物園	606-0823	左京区下鴨半木町	075-701-0141	年末年始
10	京都府立堂本印象美術館	603-8355	北区平野上柳町26-3	075-463-0007	月曜日
11	京都府立陶板名画の庭	606-0823	左京区下鴨半木町	075-724-2188	年末年始
12	京都市考古資料館	602-8435	上京区今出川大宮東入ル元伊佐町265-1	075-432-3245	月曜日
13	京都市歴史資料館	602-0867	上京区寺町通荒神口下ル松蔭町138-1	075-241-4312	月曜日・祝日
14	京都市美術館	606-8344	左京区岡崎円勝寺町124(岡崎公園内)	075-771-4107	月曜日
15	京都市学校歴史博物館	600-8044	下京区御幸町通仏光寺下ル橘町437	075-344-1305	水曜日
16	向日市文化資料館	617-0002	向日市寺戸町南垣内40-1	075-931-1182	月曜日・祝日の翌日
17	長岡京市立中山修一記念館	617-0837	長岡京市久貝3-3-3	075-957-7176	火曜日
18	大山崎町歴史資料館	618-0071	乙訓郡大山崎町大山崎竜光3 大山崎ふるさとセンター2階	075-952-6288	月曜日・祝日の翌日
19	宇治市源氏物語ミュージアム	611-0021	宇治市宇治東内45-26	0774-39-9300	月曜日
20	宇治市歴史資料館	611-0023	宇治市折居台1-1	0774-39-9260	月曜日・祝日
21	城陽市歴史民俗資料館	610-0121	城陽市寺田今堀1 文化パルク城陽西館4階	0774-55-7611	月曜日・祝日の翌日
22	八幡市立松花堂庭園・美術館	614-8077	八幡市八幡女郎花43	075-981-0010	月曜日
23	亀岡市文化資料館	621-0815	亀岡市古世町中内坪1	0771-22-0599	月曜日
24	南丹市立文化博物館	622-0004	南丹市園部町小桜町63	0771-68-0081	月曜日・祝日
25	美山かやぶき美術館・郷土資料館	601-0751	南丹市美山町島朴ノ木21	0771-75-1777	月曜日・冬季
26	日本の鬼の交流博物館	620-0321	福知山市大江町引性寺909	0773-56-1996	月曜日
27	福知山城(郷土資料館)	620-0035	福知山市内記5	0773-23-9564	火曜日
28	舞鶴市立赤れんが博物館	625-0036	舞鶴市浜2011	0773-66-1095	年末年始
29	舞鶴引揚記念館	625-0133	舞鶴市平1584 引揚記念公園内	0773-68-0836	第3木曜日
30	旧尾藤家住宅	629-2403	与謝郡与謝野町加悦1085	0772-43-1166	月曜日
31	琴引浜鳴き砂文化館	629-3112	京丹後市網野町掛津1250	0772-72-5511	火曜日
32	京丹後市立丹後古代の里資料館	627-0228	京丹後市丹後町宮108	0772-75-2431	火曜日
33	京都北山杉の里総合センター	601-0125	北区中川川登74	075-406-2212	土・日曜日・祝日・お盆
34	京都伝統産業ふれあい館	606-8343	左京区岡崎成勝寺町9-1 みやこめっせ地下1階	075-762-2670	夏季休館日
35	琵琶湖疏水記念館	606-8437	左京区南禅寺草川町17	075-752-2530	月曜日
36	茶道総合資料館	602-0073	上京区堀川通寺之内上ル寺之内堅町682 裏千家センター内	075-431-6474	月曜日
37	西陣織会館	602-8216	上京区堀川通今出川南入西側	075-451-9231	年末年始
38	京都伝統工芸館	604-8172	中京区烏丸通三条上ル	075-229-1010	水曜日・お盆
39	島津創業記念資料館	604-0921	中京区木屋町二条南	075-255-0980	水曜日
40	京都陶磁器会館	605-0864	東山区東大路五条上ル	075-541-1102	木曜日

京都府立丹後郷土資料館 ふるさとミュージアム丹後

■館の紹介

丹後郷土資料館は昭和45年11月に開館しました。京都府北部における古代から近代の歴史・考古・民俗資料や美術工芸品の調査・研究・保存・展示を行っています。各地に残された文化財を通して、地域にはぐくまれた歴史や文化を知ることによって、訪れた方々や子どもたちが故郷の歴史を次の世代へ伝えていくきっかけを作りたいと考えています。

□【本館】

館内では常設展「海国・丹後を巡る－丹後の歴史と文化－」のほか、年間を通して企画展・特別展を開催しています。

□【旧永島家住宅】（府指定有形文化財）

江戸時代に宮津藩の大庄屋を務めた農家の主屋で、天保11年(1840)に建てられ、京丹後市丹後町徳光にあったものを現在地に移築復原しました。屋根は茅葺きで、天井には鉄砲梁を設けるなど大庄屋らしく堂々とした造りです。「昔の暮らしの道具」の展示のほか「紙すき」「そばづくり」「かまど体験」など、丹後の手仕事体験教室をこの建物で行います。

□【丹後国分寺跡】（国指定史跡）

天平13年(741)、聖武天皇の詔により国家鎮護のための国分寺が各地に建てられました。現在は当館の前庭として来館者に開放されています。特別名勝天橋立を眼下に望み、四季折々の風情を楽しむことができます。

□その他普及事業

文化財講座、古文書講習会、こども体験教室の実施ほか、出前授業(講座)や文化財に関する相談にも応じています。

■交通案内

□京都丹後鉄道宮豊線「天橋立駅」又は「岩滝口駅」から、丹海バス（経ヶ岬・蒲入・伊根方面行き）で「丹後郷土資料館」下車すぐ

□京都縦貫自動車道（綾部宮津道路）「与謝天橋立IC」から車で10分
駐車場 約30台利用可能（無料）

■開館時間

○午前9時～午後4時30分

■休館日

○月曜日（祝日などの場合は開館し、翌日休館）

○年末年始（12月28日～1月4日）

■観覧料

区分	普通展		特別展示	
	個人	団体	個人	団体
一般	200円	150円	250円	200円
小・中学生	50円	40円	70円	50円

■所在地

〒629-2234

京都府宮津市字国分小字天王山611-1

TEL (0772) 27-0230

FAX (0772) 27-0020

URL:<http://www.kyoto-be.ne.jp/tango-m/>



京都府立山城郷土資料館 ふるさとミュージアム山城

■館の紹介

山城郷土資料館は、南山城地域の特色ある歴史と文化を、考古・歴史・民俗の各分野で調査研究し、こうした風土と文化がつくられた歴史的背景と変遷を明らかにするとともに、その成果を体系的に展示・公開していくことを通じて府民の歴史学習を深める場とし、また、貴重な文化遺産を永く保存することを目的として開館しました。主な業務は、次のとおりです。

- 1 資料の調査、研究、収集、整理、保存(考古、歴史、民俗)
- 2 資料の展示及び利用 常設展示、特別展示(年1回)、企画展示
- 3 考古遺物の保存科学
- 4 普及活動 文化財セミナー、体験歴史教室、文化財相談、友の会

見学の方に理解を深めていただくために、ボランティア「いずみの会」が土、日、祝日に展示解説を行っています。

また、古文書・書画・民具・土器その他お手持ちの資料や歴史・文化財に関する学習など、相談に応じています。また、職員が出向いての出前講座も実施しています。

■交通案内

- JR奈良線「上狛駅」下車徒歩20分
- JR関西線・学研都市線「木津駅」下車タクシー5分
- 近鉄京都線「山田川駅」下車タクシー10分
- 国道24、163号線「上狛四丁町」交差点を東に1.5km

■開館時間

- 午前9時～午後4時30分

■休館日

- 毎週月曜日（月曜日が祝日などの場合は開館し、翌日休館）
- 年末年始（12月28日～1月4日）

■観覧料

区分	普通展		特別展示	
	個人	団体	個人	団体
一般	200円	150円	250円	200円
小・中学生	50円	40円	70円	50円

■所在地

〒619-0204

京都府木津川市山城町上狛千両岩

TEL (0774) 86-5199

FAX (0774) 86-5589

URL:<http://www.kyoto-be.ne.jp/yamasiro-m/>



京都府立図書館

■館の紹介

1873年（明治6年）京都府が集書院を三条高倉西に開設しました。集書院は、近代的図書館としては文部省が1872年（明治5年）に開設した東京の書籍館につぐもので、公立では最初の公開図書閲覧施設です。

京都府立図書館は、この集書院を前身として1898年（明治31年）に京都御苑内に開設し、1919年（明治42年）に現在地に移転しました。

蔵書数は約110万冊で、さまざまなジャンルの図書や雑誌・新聞を所蔵している他、昭和20年から60年代までの教科書等も整理・保管しています。

また、館内ではDVD・ビデオテープ・CDなどの映像・音声資料やCD-ROMなど電子媒体の資料が利用できるとともに、インターネット閲覧端末や、過去の新聞記事や判例などの法律情報が検索可能なオンラインデータベースを備え、情報収集や調査を効率的に進めることができます。

更に、平成20年度から学校との連携協力の一環として、調べ学習等に役立つ図書をテーマごとにパッケージにして貸し出す「学校支援セット貸出」を実施し、学校教育活動に対する支援にも努めています。

京都府立図書館は、府民の読書や調べものなど、さまざまなニーズに応えることのできる施設として、府民に愛されています。

■交通案内

- 地下鉄東西線「東山」駅下車 徒歩約10分
- 市バス 5・100・32・46系統 「京都会館・美術館前」下車すぐ
- 市バス 31・201・203・206系統 「東山二条」下車 徒歩約5分
- 自家用車御利用の方へ

図書館に駐車場はありません。岡崎公園駐車場（有料）、みやこめっせ駐車場（有料）を御利用ください。（ただし、車椅子の方のための駐車スペースが図書館敷地内に1区画あります）。

■開館時間

- 火曜日～金曜日 午前9時30分～午後7時
- 土・日曜日・祝日 午前9時30分～午後5時

■休館日

月曜日（祝日及び振替休日は開館、翌日が休館）
毎月 第4木曜日 年末年始（12月28日～1月4日）
特別整理期間（毎年決定）

■所在地

〒606-8343
京都市左京区岡崎成勝寺町9
TEL (075) 762-4655
FAX (075) 762-4653
URL:<http://www.library.pref.kyoto.jp>



京都府京都文化博物館

■館の紹介

京都文化博物館は、京都の歴史と文化をわかりやすく紹介する総合的な文化施設として、1988年（昭和63年）10月にオープンしました。

2011年（平成23年）7月には、2、3階展示室やフィルムシアターを一新し、京都文化を全体的に紹介し、優れた伝統文化に触れるとともに、新しい文化の創造力を呼び起こすための文化の広場として親しんでいただいています。

京都の歴史と文化が通覧できる親しみやすい歴史博物館、京都ゆかりの日本画家、洋画家、彫刻家、工芸家などの作品を展示する美術館、京都の特性を生かした映像文化を展示・上映するフィルムライブラリーセンターの3つの機能を併せ持った「総合展示」のほか、年間を通して斬新で魅力ある企画による「特別展」を開催しています。また、重要文化財に指定されている明治の名建築・旧日本銀行京都支店を博物館のシンボルとして広く公開・活用しています。

さらに、作家や団体等が展覧会などを行う「ギャラリー（貸展示室）」や江戸時代末期の京の町家の表構えを復元した「ろうじ店舗」など、お越しになった皆様に楽しく過ごしていただけるよう工夫をこらしています。

■交通案内

- 地下鉄烏丸・東西線「烏丸御池」駅下車 徒歩約3分
- 阪急「烏丸」駅下車 徒歩約7分
- 京阪「三条」駅下車 徒歩約15分
- 市バス 15・51系統「堺町御池」下車すぐ
- 自家用車御利用の方へ
普通車のみ36台利用可能（有料）

■開館時間

- 総合展示 午前10時～午後7時30分（入場は30分前まで）
- 特別展示 午前10時～午後6時（同上）
※毎週金曜日は午後7時30分まで夜間開館（同上）

■休館日

- 月曜日（祝日及び振替休日は開館、翌日が休館）
- 12月28日～1月3日

■入場料

- 一般 500円 大学生 400円
- 高校生以下無料（引率教員無料）
- ※20名以上の団体は2割引き
- ※特別展は別途料金必要

■所在地

- 〒604-8183
- 京都市中京区三条高倉
- TEL (075) 222-0888
- FAX (075) 222-0889
- URL:<http://www.bunpaku.or.jp>



京都府立京都学・歴彩館

■館の紹介

京都学・歴彩館は、誰もが京都の歴史や文化について楽しく学べ、交流できる施設です。これまで府立総合資料館が50年以上にわたって担ってきた、京都に関する資料の収集・保存・公開機能に、新たに研究支援や学習・交流機能を加え、生まれ変わりました。

□【1階交流フロア】

《京都学ラウンジ》京都の歴史や文化等を学び研究する様々な方やグループの交流スペース。ワークショップやパネル展等も開催できます。

《展示室》京都府所蔵の美術工芸品や文書資料、図書資料を展示公開しています。

《京都学デジタル資料閲覧コーナー》西日本で初めて陽明文庫のデジタル画像が閲覧できます。(事前予約制)

《学習室》自主研究や学習に利用できます。

《大・小ホール》京都学に関する研究発表やセミナー等に利用できます。

□【2階探究フロア】

これまで旧総合資料館が収集・保存してきた京都に関する図書資料、古文書、行政文書、写真資料など約74万冊に加え、京都府立大学・府立医科大学附属図書館の所蔵図書約20万冊・学術雑誌約2千種をワンフロアで閲覧できます。

約350席ある閲覧スペースで閲覧可能であり、「情報検索コーナー」では所蔵資料の検索やアーカイブ画像を閲覧できます。

■交通案内

□地下鉄烏丸線「北山」駅下車 徒歩約4分

□市バス 4・北8系統「北山駅前」下車 徒歩約4分

1・204・205・206・北8系統「府立大学前」下車 徒歩約6分

□京都バス 45・46系統「前萩町」下車 徒歩約4分

32・34・35・45・46系統「府立大学前」下車 徒歩約6分

■開館時間

○月曜日～金曜日 午前9時～午後9時(展示室、京都学ラウンジは午後6時まで)

○土曜日・日曜日 午前9時～午後5時

※各フロアによって終了時間が変わりますので、詳しくはホームページを御覧ください。

■休館日

○祝日法に規定する祝日

○第2水曜日

○年末年始(12月28日～1月4日)

○蔵書整理期間

■観覧料

無料(大・小ホールの利用には使用料が必要です。)

■所在地

〒606-0823

京都市左京区下鴨半木町1-29

TEL (075) 723-4831

FAX (075) 791-9466

URL:<http://www.pref.kyoto.jp/rekisaikan>



京都の年中行事一覧

※実施日については変更等もありますのでHP等で御確認ください。

月日	祭り・行事名	開催地
一月 申の日から3日間 4日 8日～12日 14日 15日 21日 25日	祝園神社いごもり祭 けまり始め 初多びす 裸踊り 通し矢（大的大会） 初弘法 初天神	精華町 下鴨神社*1 恵比寿神社 法界寺 三十三間堂 東寺*2 北野天満宮
二月 2日～4日 3日 第3土曜夜～日曜 25日	節分祭（会） 追儺式 鬼法楽 涌出宮いごもり祭り 梅花祭	各社寺 廬山寺 木津川市山城町 北野天満宮
三月 15日 最終日曜日	涅槃会 嵯峨のお松明式 はねず踊り	清涼寺 随心院
四月 第1土・日曜日 中旬の日曜日 第2日曜日 29日～5月5日 最終土・日曜日 29日	福知山お城祭 京丹後ちりめん祭 吉野太夫花供養 壬生大念仏狂言 加悦谷祭 曲水の宴（11月3日もあり） あやべ丹の国まつり	福知山市 京丹后市網野町 常照寺 壬生寺 与謝野町 城南宮 綾部市

月日	祭り・行事名	開催地
五月 1日 3日 " " 3日～4日 5日	生身天満宮春祭 亀岡光秀まつり 流鏝馬（やぶさめ） 神事 三河内曳山祭 賀茂くらべ馬 歩射神事 藤森祭 駟馬神事 松尾寺 仏舞 葵祭 齋王代女人列御禊神事 葵祭 三船祭	南丹市園部町 亀岡市 下鴨神社 与謝野町 上賀茂神社*3 下鴨神社 藤森神社 舞鶴市 上賀茂・下鴨神社 上賀茂・下鴨神社 嵐山・車折神社
六月 1日～2日 5日～6日 20日	京都新能 京神社あがた祭り 鞍馬山竹伐り会式	平安神宮 宇治市 鞍馬寺
七月 1日～9月30日 14日 17日 下旬の土・日曜日 土用の丑の日 24日 25日～26日 第4土曜日 31日～8月1日	宇治川の鵜飼 八坂神社田歌の神楽 祇園祭山鉦巡行（前祭） みなと舞鶴ちやったまつり 本宮祭 御手洗祭 祇園祭山鉦巡行（後祭） 知恩寺文殊堂出船祭 みなとまつり あやべ水無月まつり 千日詣り 由良観光祭	宇治市 南丹市美山町 八坂神社 舞鶴市 伏見稲荷大社 下鴨神社 八坂神社 宮津市 京丹后市丹後町 綾部市 愛宕神社 宮津市

月日	祭り・行事名	開催地
八月 6日～7日	亀岡平和祭	亀岡市
7日	浦島神社例大祭	伊根町
7日～10日	陶器まつり	五条坂
〃	精霊迎え六道まいり	六道珍皇寺
9日	千日会観光祭	京丹後市久美浜町
14日	南丹市花火大会	南丹市八木町
〃	雨引神社揚松明(城屋揚松明)	舞鶴市
14日～翌週週末	福知山ドッコイセまつり	福知山市
15日	花背松上げ	花背八榊町
16日	京都五山送り火	大文字山ほか
〃	木津川灯籠流し	笠置町
〃	京北の火祭り	京北周山町
16日	宮津灯籠流し花火大会	宮津市
23日～24日	千灯供養	化野念仏寺
24日	広河原松上げ	左京区広河原
〃	雲ヶ畑松上げ	北区雲ヶ畑
〃	穴文殊大祭	京丹後市丹後町
25日	吉祥院六斎念仏踊	吉祥院天満宮
〃	長岡天満宮夏まつり	長岡京市
最終日曜日	わちふるさと祭	京丹波町
九月 第1日曜日	元伊勢外宮豊受大神社 元伊勢八朔祭	福知山市大江町
9日	烏相撲と重陽神事	上賀茂神社
15日	石清水八幡宮石清水祭	八幡市

月日	祭り・行事名	開催地
十月 1日～5日	ずいき祭・還幸祭	北野天満宮
第1日曜日	宇治茶まつり	宇治市
第2土・日曜日	額田一宮神社祭礼・山車	福知山市夜久野町
第2日曜日	山国さきがけフェスタ	右京区京北
〃	峰山金乃比羅神社大祭	京丹後市峰山町
〃	八瀬赦免地踊	秋元神社
〃	大住隼人舞	京田辺市
14日	多治神社かつこすり	南丹市日吉町
中旬の日曜日	質美八幡宮例祭	京丹波町
15日間近の日曜日	玉津岡神社おかげ踊り	井手町
16日	時代祭	平安神宮
22日	鞍馬の火祭	由岐神社
〃		
十一月 3日	田山花踊り	南山城村
5日～15日	十日十夜別時念仏会	真如堂
第2日曜日	嵐山もみじ祭	嵐山
11日	大極殿祭	長岡宮大極殿公園
23日	筆供養	東福寺塔頭正覚庵
十二月 8日	針供養	法輪寺
9日～10日	鳴滝の大根焚	了徳寺
14日	山科義士まつり	大石神社
21日	終い弘法	東寺
25日	終い天神	北野天満宮
31日	おけら詣り	八坂神社

(正式名称)
*1 賀茂御祖神社
*2 教王護国寺
*3 賀茂別雷神社

<編集委員>

大内田 敦（府立京都八幡高等学校教諭）
小林 園（独立行政法人教職員支援機構研修プロデューサー）
齋藤 清嗣（府立鴨沂高等学校副校長）
塩尻 尚弘（元府立北嵯峨高等学校教諭）
高橋 淳夫（福知山市立佐賀小学校教諭）
高光 宗是（京丹波町立竹野小学校校長）
辻村 敬三（大阪成蹊大学准教授）
土井 眞吾（亀岡市立大井小学校校長）
藤田 恒久（南丹教育局総括指導主事）

※敬称略、五十音順

古谷 一樹（京都府総合教育センター 企画研究部長）
元山 尚樹（京都府総合教育センター 主任研究主事兼指導主事）
森山 隆仁（京都府総合教育センター 研究主事兼指導主事）

（*所属は平成29年4月現在）

資料及び写真を御提供くださいました京都府、府内市町村及び御指導をくださいました関係諸機関に厚くお礼申し上げます。

京都府の「歴史・伝統・文化」を学ぶために・教えるために

発行	平成29年6月
	京都府総合教育センター
〒612-0064	京都市伏見区桃山毛利長門西町
TEL	075-612-3266
FAX	075-612-3267
URL	http://www.kyoto-be.ne.jp/ed-center/
E-mail	ed-center@kyoto-be.ne.jp



京都府総合教育センター